

平成24年度決算に係る

定期監査調書

平成25年4月

農林水産部農林総合研究所
園芸試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	1頁
	(2) 監査意見	1頁
	(3) 決算審査意見	1頁
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	組織及び業務調べ	1頁
4	職員の定員、現員調べ	1頁
5	役付職員の調べ	2頁
6	主な事業に関する調べ	3頁
7	決算調書(総括表)	6頁
8	事業別実施状況調べ	6頁
9	予備費の充用調べ	6頁
10	繰越関係調べ	6頁
	(1) 繰越費運欠繰越調べ	6頁
	(2) 繰越明許費調べ	6頁
	(3) 事故繰越調べ	6頁
11	収入証紙取扱額調べ	6頁
12	収入事務処理状況調べ	6頁
	(1) 分担金及び負担金	6頁
	(2) 使用料	6頁
	(3) 手数料	6頁
	(4) 財産収入	6頁
	(5) 寄付金	7頁
	(6) 諸収入	7頁
	(7) 現金の取扱状況	7頁
13	税外収入未済額調べ	8頁
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	8頁
15	税外収入不納欠損額調べ	8頁
16	債務負担行為の状況調べ	8頁
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	9頁
	(1) 負担金	9頁
	(2) 補助金	9頁
	(2-2) 補助金(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの)	9頁
	(3) 交付金	9頁
	(4) 委託料	10頁
	(4-2) 委託料(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの)	10頁
18	工事請負費調べ	11頁
18-2	工事請負費調べ(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの)	11頁
19	財産に関する調べ	12頁
	(1) 公有財産	12頁
	(2) 金券類の受払状況	14頁
	(3) 基金	14頁
	(4) 債権	14頁
20	財産の貸付及び使用許可調べ	15頁
	(1) 土地及び建物	15頁
	(2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの)	16頁
21	借受不動産明細調べ	16頁
22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	17頁
	(1) 職員住宅	17頁
	(2) 職員駐車場	17頁

23	自動車(二輪を除く)の管理状況調べ	18頁
24	寄附物件の受納状況調べ	18頁
25	備品の処分状況調べ	18頁
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	19頁
27	貸付金等状況調べ	19頁
	(1) 総括表	19頁
	(2) 償還状況	19頁
28	事業別予算執行状況調べ	20頁
29	農業機械の管理状況	21頁
30	生産物(品)に関する調べ	23頁
31	試験研究調査事業別実施状況調べ	26頁
○	意見、要望等	50頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1)指摘事項 該当なし
 (2)監査意見 該当なし
 (3)決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
園芸試験場	果樹研究室	果樹の育種及び栽培に関すること。
	野菜研究室	野菜の育種及び栽培に関すること。
	花き研究室	花きの育種及び栽培に関すること。
	環境研究室	果樹・野菜・花きの病害虫に関すること。
	生物工学研究室	特産園芸作物を対象としたバイオテック手法による新品種育成に関すること。
	砂丘地農業研究センター	ラッキョウ・フドウ・ナガイモの栽培技術改善に関すること。
	弓浜砂丘地分場	白ネギ等特産野菜の品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	河原試験地	カキの品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	日南試験地	中山間地の特産野菜や花きの品種選定と栽培技術の改善に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

(平成25年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	25.4.1 現在	24.4.1 現在	25.4.1 現在	24.4.1 現在	25.4.1 現在	24.4.1 現在	25.4.1 現在	24.4.1 現在	
定員	0	0	34	35	14	14	48	49	
現員	0	0	34 (6)	35 (6)	14	14	48 (6)	49 (6)	病害虫防除所兼務
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	49	48	50	49	農業技術員49名 一般事務 1名

5 役付職員の調べ

(平成25年4月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
場長	村田 謙司	3年	0月	通算5年
次長	徳山 英晴	0年	0月	
果樹研究室長	池田 隆政	0年	0月	
野菜研究室長	石原 俊幸	4年	0月	
花き研究室長	岸本 真幸	5年	0月	
環境研究室長	田中 篤	4年	0月	
生物工学研究室長	前田 英博	5年	0月	
砂丘地農業研究センター所長	西村 光博	0年	0月	
弓浜砂丘地分場長	中村 博行	1年	0月	
河原試験地長	小谷 和朗	4年	0月	
日南試験地長	龜田 修二	5年	0月	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要
<p>園芸産地を守る難防除病虫害防除技術の確立</p> <p>決算(見込)額 2,052千円 (財源内訳) 一般財源 2,052千円</p> <p>○政策項目 10 「食のみやこ鳥取県」の全国展開 (2) 「食のみやこ鳥取県」を全国での認知向上</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 県内園芸作物の生産地ではナシの白紋羽病、ハダニ類、ラッキョウの赤枯病、スイカのオオタバコガ等の難防除病虫害が増加し、防除が困難であることから生産が不安定となっている。そこで、これら難防除病虫害の防除対策を確立し、園芸産地の維持を図る。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>①ナシの白紋羽病に対する温水処理、非病原性白紋羽病菌(ナシには悪影響の無い菌であり、この非病原性白紋羽病菌がナシの根の周りに多くあると、ナシに悪影響のある白紋羽病菌が根に侵入できない)による防除方法を検討している。 ②ナシのシンクイムシ類、ハダニ類の防除体系の改良を行うため、防除効果の高い薬剤を検討している。 ③ラッキョウの赤枯病に対し、温湯処理の処理時間の短縮、有効薬剤等について検討している。 ④スイカのオオタバコガ、ミニトマトのすすかび病に対する防除体系の改良を行うため、防除効果の高い薬剤を検討している。</p> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>①ナシの白紋羽病に対する温水処理効果が不十分であったため、処理後の温度推移について詳細に調査を行った。 ②ナシのナミハダニは、現地ほ場から採集した個体群について薬剤の効果試験を行った。 ④スイカのオオタバコガは、室内において薬剤の防除効果を検討し、ほ場において防除体系の有効性を検討した。トマトのすすかび病は、現地ほ場から病原菌を採取して接種試験を行った。</p> <p>ウ 成果</p> <p>①ナシの白紋羽病に対する温水処理は、処理時期が9月下旬以降では積算温度(温度×時間)が不足するため、十分な防除効果が得られない可能性があることが明らかになった。 ②ナシのシンクイムシ類、ナミハダニ、休眠態(低温等の環境変化に備えて発育が休止した状態)であり、一般に農薬が効きにくい)のカンザワハダニに対する有効薬剤がある程度明らかになった。 ③ラッキョウの赤枯病に有効な温湯処理条件は、50℃では20分に短縮可能であり、45℃では30分が最適であると考えられた。 ④スイカのオオタバコガに有効な薬剤がほぼ明らかになり、ミニトマトで使用可能な薬剤について、すすかび病に対する防除効果がある程度明らかになった。</p> <p>エ 課題</p> <p>①ナシの白紋羽病の温水処理における、土壌の種類ごとに有効な処理時期の検討。 ②ナシのハダニ類、シンクイムシ類に対する防除体系の改良。 ③ラッキョウ赤枯病に対する有効薬剤の検討。 ④スイカのオオタバコガ、ミニトマトのすすかび病に対する防除体系の改良。</p>

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
バイテックによる花き ニューアイテムの開 発 事業期間 平成19～28年 決算(見込)額 1,300千円 (財源内訳) 一般財源 1,300千円 ○政策項目 10「食のみやこ鳥 取県」の全国展開 (2)「食のみやこ 鳥取県」を全国で の認知向上	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 本県の花き産地は、需要期の出荷や品質が不安定なため、市場での評価が低く、販売に苦慮している品目がある。このため、生産者から、鳥取県の気候風土に適した独自の高品質な新品種を開発し、ブランド力を高めることが望まれている。そこで、バイテック手法を用い、本県独自のリンドウ、ユリ及び観賞用ラッキョウ等のニューアイテムを開発し、本県産花きのブランド化を推進し、産地の振興を図る。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>① りん片を利用した栄養繁殖からでも1年以内に開花する(小球開花性)有色の球根性ユリ新品種を開発する。 ※りん片：ユリ球根を構成するうるこ状の断片 ※栄養繁殖：植物体の一部を利用して増殖する方法</p> <p>② 本県オリジナル作型である彼岸を中心とした秋冬出荷作型でも安定出荷できる高品質なシンテッポウユリ新品種を開発する。</p> <p>③ 盆に出荷可能で、頂花咲きに優れ、花色の濃いリンドウ優良品種を開発する。</p> <p>④ リンドウ優良系統を素材として育成した四倍体と優良系統(2倍体)を交配したリンドウ三倍体を開発し、日持ち性を向上させる。</p> <p>⑤ 鉢物用に適する観賞用ラッキョウ優良系統の現地実用性を評価する。</p> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>① 小球開花性ユリ優良系統については、高単価が期待できる秋冬出荷作型への適応性を評価するとともに、花品質に優れる雑種を新たに二次選抜する。</p> <p>② 優良系統を自殖より世代を進め、育成目標形質の発現をさらに安定させる。 ※自殖：遺伝的に安定させるために、自分のめしべと花粉同士で行う交配法</p> <p>③ 盆咲きリンドウ育成では、明らかとなった遺伝様式を参考に、有望な交配組み合わせをさらに絞り込み、実施・評価した。</p> <p>④ 温度条件を最適化した室内で交配を行い、三倍体リンドウ種子の稔実率を向上させる。</p> <p>⑤ 観賞用ラッキョウ優良系統2系統の鉢物出荷への適性を生産者とともに評価する。</p> <p>ウ 成果</p> <p>① 小球開花性に優れ、秋冬出荷作型への適応性が高く、花き品質に優れる黄色のユリ1系統を有望と認めた。また、花き品質に優れるアプリコット色のユリ1系統も選抜した。</p> <p>② シンテッポウユリ選抜7系統は、慣行品種と同等以上の品質で優れた。また、これらの系統は、育成目標形質の発現が安定してきた。</p> <p>③ 盆咲きリンドウ育成では、特に4系統の現地での実用性は高く、有望と思われた。</p> <p>④ 育成した優良系統四倍体と優良系統(二倍体)と交配を行い、三倍体と思われるリンドウ雑種を獲得した。</p> <p>⑤ 観賞用ラッキョウ優良2系統は何れも鉢物出荷への適性が高く、種苗登録申請することとなった。</p> <p>エ 課題</p> <p>① 黄色1系統については、種苗登録に向けての準備を進める。アプリコット色1系統については、秋冬出荷作型での安定開花技術の確立を行う。</p> <p>② シンテッポウユリでは、自殖選抜により世代をさらに進め、形質の揃いを高める。</p> <p>③ 盆咲きリンドウ育成では、有望系統の実用性を現地適応性検定により早期に総合的に判断する。</p> <p>④ 獲得した三倍体リンドウの養成を図り、早急に三倍体の特性を評価する。</p> <p>⑤ 観賞用ラッキョウ2系統の普及にあたっては、種苗供給体制を整備する必要がある。</p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概 要
<p>他県産地に打ち勝つブドウ生産に向けた高度栽培法の確立</p> <p>事業期間 平成20～24年度</p> <p>決算(見込)額 2,100千円 (財源内訳) 一般財源 2,100千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア)目的</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ビオーネは、着色不良果の発生により単価が低下している。このため、着色優良系統(県内2系、県外1系統)とされている系統の中から最も着色のよいものを選定するとともに、これを早期に普及するためのⅰ.低コスト早期改植技術の確立とⅱ.高接ぎ順次更新技術(ブドウの成木に異なる品種を接木し品種更新を行う方法)の確立を行う。 ② 消費者嗜好にあったシャインマスカットの種なし栽培技術の確立を行う。 ③ 近年施設費が高騰し、ハウスの新設と更新が難しため、安価な雨よけ施設を利用し、9月から10月にかけて高品質なブドウを消費者へ提供することができる栽培技術の確立を行う。 <p>(イ)事業の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ビオーネの着色優良系統の選抜と密植栽培に適した植付け本数の検討を行う。 ② シャインマスカットの種なし栽培のため、適正な植物調節剤(ジベレリンやフルメットなどの植物をコントロールできる植物ホルモン様物質。ブドウでは種なし栽培や果粒肥大させたいときに使用する。)の使用濃度の検討と、長期出荷技術の確立のため果実袋の検討を行う。 ③ 雨よけ施設栽培に適したゴルビー、ウインク、ブラックピート等10品種による有望品種の栽培適性調査および経済性の検討を行う。 <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ビオーネの着色優良系統の選抜は、漸く全ての調査樹で収穫調査が可能となり、実際の栽培技術で栽培し検討を行った。またと密植栽培の検討では、償行のWH型(ブドウの樹を上から見たとHが2つ重なった樹形)の生育が悪いため施肥を行い、密植栽培区では無施用とした。 ② 花震い(花や果粒が肥大せず枯死して落下すること)性の強いシャインマスカットの種なし栽培技術確立のため、花震い防止の植物調節剤(フルメット)処理を行い生産を安定させた。また、長期出荷のための袋試験では、早期出荷用果実袋と晩生出荷用果実袋の2種類の果実袋を試験した。 ③ 雨よけ施設栽培に適した有望品種の栽培適性調査では、省力化と高品質化を図るため植物調節剤1回処理での栽培試験とした。 <p>ウ 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ビオーネの着色優良系統の選抜は、着色と収量性の点で羽合系と河合系が優れていると判断された。密植栽培の検討では、密植区は成圃並の収量が上がっている。 ② 花震い性の強いシャインマスカットの種なし栽培は、開花2週間前にフルメット3ppmを果房浸漬処理をすることで着粒が安定した。また、長期出荷のための袋試験では、早期出荷に適した有孔袋(水蒸気は通るが水は通さない起音波で開けた穴が無数にある透明な袋)は9月上旬から、晩生出荷に適した青竹(紺色袋)は9月中旬からが収穫適期であった。 ③ 雨よけ施設栽培に適した有望品種の栽培適性調査では、安芸クイーンとゴルビーが有望と判断された。 <p>エ 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ビオーネの着色優良系統の選抜は、羽合系と河合系が優れていると判断されたが、昨年と結果が異なるので、年次変動を調べるため継続調査が必要。密植栽培の検討では、間伐や短果枝の維持の難しさから、密植区の収量減が見込まれるため継続調査が必要。 ② 花震い性の強いシャインマスカットの種なし栽培は、開花2週間前にフルメット3ppmを果房浸漬処理をすることで着粒が安定したが、果粒肥大のための植物調節剤の濃度の検討が必要。 ③ 雨よけ施設栽培に適した有望品種の栽培適性調査では、年次変動を調べるため継続調査が必要。

- 7 決算調書(総括表) 別途提出
- 8 事業別実施状況調べ 別途提出
- 9 予備費の充用調べ 別途提出
- 10 繰越関係調べ 別途提出
- 11 収入証紙取扱額調べ 該当なし
- 12 収入事務処理状況調べ
- (1)分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
行政財産 使用料	行政財産 使用料	電柱敷地等	10	90,114	90,110	0	0	鳥取県行政財 産使用料条例	
		職員駐車場	52	52,000	52,000	0	0	"	4~12月分
	計(節)		62	142,114	142,110	0	0		
目 計			62	142,114	142,110	0	0		
合 計			62	142,114	142,110	0	0		

- (3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
生産物売払 収入	生産物売払 収入		157	22,181,831	22,181,831	0	0	農林水産関係 試験研究機関 等における生 産品事務取扱 要領	
		計(節)		157	22,181,831	22,181,831	0	0	
目 計			157	22,181,831	22,181,831	0	0		
合 計			157	22,181,831	22,181,831	0	0		

(5) 寄付金 該当なし

(6) 諸収入

(単位:円)

取 入 科 目			件数	調定金額	取入済額	不納欠損額	取入未済額	振込法令名等	備考
目	筋	細筋							
雑 入	雑 入	預金利息	5	249	249	0	0		
		過年度分精算金等	3	318,805	318,805	0	0		
		自動販売機電気代、手数料	6	64,369	64,369	0	0		
		原稿執筆料	1	8,000	8,000	0	0		
	計(節)		15	391,423	391,423	0	0		
目 計			15	391,423	391,423	0	0		
合 計			15	391,423	391,423	0	0		

(7) 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況

(単位:円)

収入科目(節)	取 入 済 額	備 考
生産物売払収入	766,400	生産品販売代金
合 計	766,400 (817件)	

イ つり銭の状況

(平成24年12月31日現在)

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)	

13 税外収入未済額調べ 該当なし

14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし

15 税外収入不納次振替調べ 該当なし

16 債権員組行為の状況の調べ

事業名	種別	設定状況		債権員組行為の期間	債権員組行為の期間		備考	
		種別	期間		23年度までの執行額	24年度執行額		25年度以降の執行予定額
平成23年度 国土交通省 業務委託	委託料	円	H24年度から H25年度まで	円	円	円	円	円
		2,919,000		0	725,780	1,451,520	2,177,280	2,177,280
	合 計	2,919,000		0	725,780	1,451,520	2,177,280	2,177,280

17 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(単位:円)

予算科目(目)	予算額	区分	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令等 (契約、要領等を含む)	備考
	円 1,756,600	単県	中海干拓地弓浜工 区區課金	米川土地改良 区区理専長	定額	H24.7.2外	377,250	米川土地改良区 定款	
園芸試験場費		単県	北条砂丘土地改良 区區課金	北条砂丘土地 改良区区理専長	定額	H24.7.31外	310,250	北条砂丘土地改良 区定款	
		単県	大栄町土地改良区 區課金	大栄町土地改 良区区理専長	定額	H24.7.27外	973,388	大栄町土地改良区 定款	
支出金額が10万円未満の もの							28,750		
小計							1,690,636		
合計							1,690,636		

(2) 補助金 該当なし

(2-1) 補助金(借財から予算の配当替え又は命運を受けて執行するもの)

該当なし

(3) 交付金

該当なし

(4) 委託料

予算科目 (目)	国庫 支出 の別	委託料の名称	委託契約の相手方	当初契約		入 年 月 日 (契約原簿金 (納付等年月日) 履行検査 年月日)	支出の状況		備 考	
				予定価格	契約 期間 (契約年月日) 契約 期間 (契約年月日)		支払 年月日	支払 区分		金額
国土建設費	単県	鳥取県農林水産部農林総合 研究所園芸部野菜施設管理 課	鳥取市富安5-1-2 山陰畜備保庫(株)	1,581,000	(H24.3.27) 1,098,200	H24.3.15 (免除)	H24.4.30外	H24.5.19外	H24~H26年度 運営費延行為 年額 365,400円	
				789,000	(H24.3.28) 740,880	H24.4.1~ (免除)	H24.4.30外	H24.5.1外	H24~H26年度 運営費延行為 年額 248,960円	
				549,000	(H24.3.30) 340,200	H24.4.1~ (免除)	H24.4.30外	H24.5.1外	H24~H26年度 運営費延行為 年額 113,400円	
				336,631	(H24.4.1) 336,631	H24.4.1~ (免除)				
			「個人」							
			鳥吉市和田309 有限会社 廣白園	405,980	(H24.10.11) 374,850	H24.10.4 (免除)	H24.10.25	H24.11.1	374,880	
		樹木剪定業務委託							255,200	
									1,114,890	
									1,114,890	
予定価格が60万 円未満のもの										
目 計										
合 計										

(4-2) 委託料(他課から予算の取替え又は有償を受けて執行した5の)

該当なし

18 工事請負費部へ

(単位:円)

予算科目 (目)	国庫 県庫 の別	工 事 名	当初契約		入 札 年 月 日 (契約保証金 納付等年月日)	請 負 人	支出の状況			地 成 日 月 日 年 月 日	変更(増減)の 理由・内容	備 考
			(起工年月日)(契約年月日) 設計額	(契約年月日) 契約額			工 期	工 期	支 出 区 分			
単 庫	県	水田庄橋ナシ 運河庄橋の水 田復旧工事	(H24.10.12)	(H24.10.22)	H24.10.24	こおけ建設(株)						
			2,056,527	1,249,500	H24.12.14							
単 庫	県	気香川運道 復旧工事(更 新)	(H24.12.14)	(H24.12.14)	随	鳥取科学器械(株)						
			2,056,527	1,249,500	H25.3.15							
単 庫	県	パハハウス 運パルム及 び付随解体 換工事	(H24.11.1)	(H24.11.20)	H24.11.20	(株) 池本舗工所						
			2,283,750	2,283,750	H25.3.8							
単 庫	県	パハハウス 運パルム及 び付随解体 換工事	(H24.11.15)	(H24.12.8)	H24.11.29							
			387,450	388,250	H24.12.27							
目 計											0	
合 計											0	

18-2 工事請負費部へ(他課からの配当費又は令送を受けて執行したもの)

該当なし

19 財産に関する調べ

(1)公有財産

ア 土地

(平成24年12月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名前	所在地	前年度末		本年度末		本年変動		本年変動理由		差引		備考
			面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)	価額(円)	増加/減少	理由	面積(m ²)	価額(円)	増加/減少	理由	
行政財産	(本場)												
	敷地・道・遊路	(北条町由良青字上ノノリ2048外)	204,353.81					増加					
								減少					
	(砂丘地産研センター)	(北条新田井中沖浜527外)	9,881.00					増加					
	敷地・遊路							減少					
	(倉吉正場)							増加					
	敷地・道・遊路	(倉吉市大谷菜園(寸原883外)	34,465.72					減少					
	(高浜沙丘地分場)							増加					
	畑・宅地	(備前市大字中瀬干筋地15外)	29,018.32					減少					
	(河原沼敷地)							増加					
	敷地・遊路	(鳥取市河原町大字松原字丸原 327)	1,545.11					減少					
小計			279,264.26										
普通財産													
	(倉吉正場)							増加					
	敷地・道・遊路	(倉吉市大谷菜園(寸原883-39外)	3,001.32					減少					
小計			3,001.32										
合計			282,265.58										

イ 建物

(平成24年12月31日現在)

行政・事業 財産の区分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		本年度末				本年産民動状況		備考	
			面積(㎡)	価額(円)	増減別	変動日	面積(㎡)	価額(円)	増減理由	面積(㎡)		価額(円)
行政財産	(本場)	(北栄町由良宿)	5,469.84		増加	H					5,469.84	
	機材供給用庫外				減少	H						
本場計	(西園庄場)	(北栄町西園)	252.00		増加	H					252.00	
	管理器具庫外				減少	H						
行政財産	(倉吉本場)	(倉吉市大谷茶壺)	2,078.49		増加	H					2,078.49	
	本館外				減少	H						
行政財産	(百浜砂丘地分場)	(津浦市中瀬干採池)	849.47		増加	H					849.47	
	本館外				減少	H						
行政財産	(河原試験地)	鳥取市河原町佐貫	413.37		増加	H					413.37	
	本館外				減少	H						
行政財産	(砂丘地農業研究センター)	(北栄町田井)	436.79		増加	H					436.79	
	本館外				減少	H						
行政財産	(日南試験地)	(日南町阿羅漢)	404.12		増加	H					404.12	
	本館外				減少	H						
合計			8,904.08								8,904.08	

ウ 山林	該当なし
エ 不動産売却等	該当なし
オ 財産の交換	該当なし
カ 動産(船舶、浮標、浮桟橋、浮ドック、航空機)	該当なし
キ 物件	該当なし
ク 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等)	該当なし
ケ 有価証券	該当なし
コ 出資による権利	該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成24年12月31日現在)

種 別	前年度末	本年度中		差 引	備 考
		購入額	使用額		
郵便切手及び郵便はがき	円 142,675	円 91,000	円 94,970	円 138,705	
収入印紙	2,000	2,000	1,200	2,800	
合 計	144,675	93,000	96,170	141,605	

イ タクシーチケットの受払状況 該当なし

(3) 基 金 該当なし

(4) 債 権

(平成24年12月31日現在)

債権の名称	前年度末		本年度中				差 引		備考
			増		減		件数	金額	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額			
行政財産使用料	11	115,680	16	126,096	6	58,590	21	183,186	
合 計	11	115,680	16	126,096	6	58,590	21	183,186	

20 財産の買付及び売却許可額へ
(1) 土地及び建物。
ア 土地

行政・建設法 庫の区分	買付 (使用許可) 目的	所在地	数量又は面積	買付 (使用許可) 年月日	買付 (使用許可) 期 限	買付(使用)料(円)		買付(使用)許可 生 産 名	備 考
						原価	本年度の 買付(使用)料		
行政・建設法	電力供給施設	本島	電柱 2本 変圧 2本 交差 7条	H21.1.13 S.S.10.16	H21.4.1 ~ H23.3.31	年額	19,000	19,000	倉吉市飯島町245-9 中国電力(株) 倉吉市飯島町245-9 倉吉市飯島町245-9
	"	"	電柱 6本 変圧 1本 交差 2条	S.83以前	H20.4.1 ~ H23.3.31	年額	15,670	15,670	中国電力(株) 倉吉市飯島町245-9 倉吉市飯島町245-9
	"	"	電線 2条	H14.4.18	H24.4.1 ~ H25.3.31	年額	3,490	3,490	中国電力(株) 倉吉市飯島町245-9
	電線運送施設	"	電柱 5本 交差 1本 交差柱 1本 交差線 5条	H5.4.1	H24.4.1 ~ H25.3.31	年額	20,780	20,780	倉吉市飯島町245-9 倉吉市飯島町245-9 日本電信電話(株) 倉吉市飯島町245-9 倉吉市飯島町245-9
	未活用	"	自動販売機 1台	H21.4.2	H24.4.1 ~ H25.3.31	年額	864	864	倉吉市飯島町245-9 代客取捨受 戸田 隆久
	電力供給施設	預前庄場 北原町西園	電線 1条	H22.1.20 H17.8.15	H22.4.1 ~ H27.3.31	年額	1,750	1,750	倉吉市飯島町245-9 中国電力(株) 倉吉市飯島町245-9
	"	砂土地蔵業研究セブ 北原町井	電柱 1本	H20.3.31	H20.4.1 ~ H23.3.31	年額	1,960	1,960	中国電力(株) 倉吉市飯島町245-9
	"	砂土地蔵業研究セブ 北原町井	電柱 2本	H20.3.31	H20.4.1 ~ H23.3.31	年額	3,460	3,460	中国電力(株) 倉吉市飯島町245-9 倉吉市飯島町245-9
	"	倉吉庄場 倉吉市大谷深庭	電柱 6本 交差 1本 交差 3条	H21.1.20 H3.1.9	H22.4.1 ~ H27.3.31	年額	17,300	17,300	中国電力(株) 倉吉市飯島町245-9 倉吉市飯島町245-9
	電力供給施設	母島島丘分署 徳島市中国字稻地	電柱 3本 交差線 1条	H24.4.1	H24.4.1 ~ H25.3.31	年額	6,920	6,920	米子市飯島町2丁目61番地 中国電力(株) 米子市飯島町 2丁目 61番地
計							90,114		
計									
合計									90,114

イ 産 物 該 当 不 該 当

(2) 物産(1品の取寄価格が100万円以上のもの) 該 当 不 該 当

21 借受不動産明細表へ

区分	種別(使用目的)	借受	所在地	敷	賃	賃	賃	契約の状況		借受先	借受先	借受先
								面積	借料			
(河原越跡地)												
土地	山林・畑	沼津市地	島取市河原町佐賀字丸根74	7,958.00	有	850,12.10	~	月額・年額 無料	無料	島取市		
土地	畑	沼津市地	島取市河原町佐賀字丸根1827-1外	12,988.29	有	H18.3.22	~	月額・年額 無料	無料	島取市		
土地	田	沼津市地	島取市河原町佐賀字丸根122-2外	3,303.00	有	H4.4.1	~	月額・年額 79,820	79,820	島取市		
土地	畑	河原越跡地 沼津市地	島取市河原町佐賀字丸根32	451.80	有	H17.5.1	~	月額・年額 21,691	21,691	個人		
(本場)	土地	沼津市地	八潮郡八潮町大字山丘字八潮前222-1,2,3	2,954.00	有	H12.4.1	~	月額・年額 51,280	51,280	個人		
土地	山林	掛次能郷田	東佐郡能郷田島郷字上ノ79040-3外	148.00	有	H20.4.1	~	月額・年額 3,285	3,285	個人		
(日帯越跡地)	土地	日帯越跡地	日帯越日帯町河原町字七ツケ田1201外	171,571.61	有	S.57.4.1	~	月額・年額 無料	無料	日帯越		
合計				48,820.90					155,576			

22 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1)職員住宅 該当なし

(2)職員駐車場

ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積(m ²)	貸付(使用)料(月額)(円)
行政財産	本場 (東伯郡北栄町由良宿2048)	12.5	1,000
	生物工学研究室 (倉吉市大谷茶屋883-85)	12.5	1,000
	砂丘地農業研究センター (東伯郡北栄町田井529)	12.5	1,000
	弓浜砂丘地分場 (境港市中海干拓地27)	12.5	1,000
	河原試験地 (鳥取市河原町佐貫527)	12.5	1,000
	日南試験地 (日野郡日南町阿国線1203-1)	12.5	1,000
普通財産			

イ 異動状況

月別	前月末	当月減		当月増		当月末		前定額	収入済額	収入未済額
		うち減免		うち減免		うち減免				
4月	87			7	7	94	89	5,000		
5月	94					94	89	5,000		
6月	94			1		95	89	6,000		
7月	95					95	89	6,000		
8月	95	1	1			94	88	6,000		
9月	94			1	1	95	89	6,000		
10月	95					95	89	6,000		
11月	95					95	89	6,000		
12月	95					95	89	6,000		
1月										
2月										
3月										
合計								52,000	52,000円	0円

23 自動車(二輪を除く)の管理状況調べ

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行 キロ数	本年度		備考
					稼働 日数	(1か月平均) 走行キロ数	
普通貨物 (本場)	3	鳥取11 セ 31-61	H8.7.31	107,890 km	67	2,355 km	141,496 円
小型貨物 (弓浜砂丘地区分署 いすゞ)	10	鳥取45 セ 57-47	H10.9.24	49,318	96	3,455 km	118,756
合計			2台				260,252

24 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

25 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	数量	(登録年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格	不用決定 年月日	不用とする 理由	処分		備考		
							売却・売却 の別	売却方法・棄 却理由			
A4カラーレーザープリンター	1	H14.3.31	5年	219,030 円	H24.5.10	老朽化のため 修理不能	売却	使用不可能 なため	H24.12.17		
A4カラーレーザープリンター	1	H14.3.31	5	219,030	H24.5.10	老朽化のため 修理不能	売却	使用不可能 なため	H24.12.17		
合計	2			438,060						0	産廃契約で処理 "

26 現金、有価証券、物品の亡失、損傷額

(平成24年12月31日現在)

現金、有価証券 又は物品名	数量	金額	出納員又は 使用者職氏名	亡失、損傷年月 日、時	同左場所	同左概要	報告 年月日	会計局の 審査結果
公用車	1	「リース車両」 (22,659)	不明	不明	不明	定期検査の際、点検業者が右フロント、ローアームの破損を発見し、4月16日に報告を受けた。 職員に確認したが、発生時期・要因は不明であった。	H24.4.18	—
公用車	1	「リース車両」 (81,270)	不明	不明	不明	職員が乗車しようとした際、左前方側面ボディーにへこみがあるのを発見した。 全職員に問い合わせしたが、原因及び発生時期を特定することはできなかった。	H24.4.18	—
公用車	1	「リース車両」 (8,667)	不明	不明	砂丘地帯農研 センター敷 地内	平成24年6月1日に配置換えにより使用することとなった該当車両は、この時点でドアミラーの取り付け部に亀裂が生じていたが、運行には支障が無いので使用し続けた。 平成24年6月17日の、業者の1年点検時も指摘はなく、以後も使用し続けた。 平成24年7月23日午後2時30分ごろ使用のため、該当車両に近づくと、ドアミラーが落下していた。	H24.7.23	—
公用車	1	「リース車両」 (145,976)	研究員 桑名 久美子	H24.8.10 午後1時15分頃	北栄町由良宿 1571附近	平成24年8月10日午後1時15分頃、農家宅へ試験の打ち合わせに向かう途中、狭い道で対向車と出会い、避けようとして進み後方にあった電柱と後部車体が衝突した。 対向車、および電柱は破損はなく当方の公用車が破損および変形した。	H24.8.10	—
合計	4	258,572						

27 貸付金等状況調べ

該当なし

28 事業別予算執行状況調べ

目名	財産管理費	(平成24年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(園芸試験場)を修繕(8件)	

目名	農業総務費	(平成24年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
農林水産部管理運営費	新規採用職員宿泊研修に参加	
先端的農林水産試験研究推進強化事業費	作物別研究会を開催し農家(委員として参加)が生産現場で抱える課題、問題点を把握し、今後取り扱う課題の検討や得られた研究成果に対する評価を得る。	

目名	農作物対策費	(平成24年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
花き生産強化推進事業	・ミニフラワーガーデンの設置	

目名	肥料植物防疫費	(平成24年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
農業適正使用推進事業	・マイナー作物の農薬登録に向けた試料作成を行った(ラッキョウ)	

品名	形式 及び 型番	取 得 年 月 日	用 途	稼働 日数 日	燃 料 消 費 量 ℓ	金 額 円	修理費等 円	左の主な内容 円	備 考		
(本場)											
動力用農車	ヤンマー FG-182SD デクスイ EG-8-872 ガフシマ EO 1250 デクスイ EJ 8-680D デクスイ J1-HD-DP ガフシマ RF-4WD-DV ガフシマ RF4WD-D ガフシマ ACK1820-4WDE ガフシマ AG18-4WD	H6.8.10 H22.6.18 H4.9.25 H8.6.50 H12.5.9 H16.6.18 H16.6.20 H16.6.14 H24.6.9	生産物運搬 "	40 51 0 127 38 49 59 124 69	ガソリン ガソリン 軽油 ガソリン ガソリン ガソリン ガソリン 軽油 軽油	41 56 0 49.5 56.5 60 44 60.5 43	5,898 8,176 0 7,081 8,541 9,780 6,424 7,273 5,590	2,909 0 0 0 11,760 48,428 0 19,320 0	オイル交換 "	2,809 0 0 11,760 48,428 0 0 0	新規
トラクター	シバウラ ローグリアランス ヤンマー F180 ヤンマー AD-30ML イセキ T802QF-Y ヤンマー 18PG AFZ18VPVCS4M ヤンマー 恒式 RS-300KVLJ ヤンマー 261PS EF32EXLQIC8 期間 3S 4WD-10 ヤンマー YAS10GDDX 期間 3S-FS0815	S62.73 H4.8.20 H6.1.21 H12.3.15 H14.4.10 H14.8.10 H16.6.22 H7.7.7 H19.4.21	畑作管理 "	48 17 46 171 89 66 123 44 69 68	軽油 軽油 軽油 軽油 軽油 軽油 軽油 軽油 軽油 軽油	87.5 40 100.7 228.2 315 104.3 551 291.4 282.51 178.5	11,375 5,200 13,671 28,668 40,850 13,559 72,030 37,882 32,851 23,205	128,058 38,400 11,029 58,443 1,588 204,173 3,510 84,232 2,100	バッテリー交換 油類不良修理 セルモーター修理 ベルト修理 "	21,400 49,300 54,286 2,100 3,980 34,850 11,029 28,088 29,085 5,220 1,588 104,845 100,328 2,510 82,814 1,418 2,100	
スピードスプレヤー	ヤンマー 3S 4WD-10 ヤンマー YAS10GDDX 期間 3S-FS0815	H14.8.10 H7.7.7 H19.4.21	"	66 44 69	軽油 軽油 軽油	104.3 291.4 282.51	13,559 37,882 32,851	1,588 3,510 84,232	ファンベルト交換 "	1,588 3,510 84,232	
耕 転 機	サトウ K0160 クボタ HS-1902-L型 ヤンマー NFAD8-L	S51.9.23 H6.9.19 H16.2.28	耕転・畝立 "	0 8 8	軽油 ガソリン 軽油	0 13 0	0 1,898 0	0 0 0	0 0 0		
長いも深耕機	ヤンマー NFAD8-L	H16.2.28	深 耕	8	ガソリン	34	4,884	0	0		
管 理 機	クボタ(高松市影徳村) TL-85 NO.1 クボタ TL-85 NO.2(旧) クボタ TAR800-SCJV イセキ KF7FS クボタ クワダ-9-1E7 SM615B	H4.9.4 H4.9.11 H14.5.13 H14.5.13 H14.5.13 H8.8.24	耕転・畝立 マルチ・播種 耕転・畝立 "	20 10 15 8	ガソリン ガソリン ガソリン ガソリン	34 11 13 7	4,884 1,008 1,898 1,022	0 0 31,228 0	0 0 0 0		
草刈り機	クボタ R468-TK	H17.7.29	草刈結束	8	ガソリン	0	0	0	0		
動力草刈機	大浜農機 オートモア	S60.1.25	"	0	ガソリン	0	0	0	0		
草 刈 機	中央工業 AMB1A 共立	H6.4.18 "	"	4	ガソリン	8.5	1,241	0	0		
高 所 作 業 車	KCG-3500SH/T 共立 KCG-3500H オレック RM90V	H5.3.17 H17.8.9 H8.8.14	樹園地刈込 "	8 20 18	ガソリン ガソリン ガソリン	8 44 57	1,168 6,424 8,322	33,609 0 24,160	33,609 0 24,160	33,609 0 24,160	
乗 用 草 刈 機	アグリップ RM-80JD アテックス菊富王 R-950HA フワイ MB1021 X1 バリエクス L865 ガフシマ L890ED ブドー BS138UH	H11.3.16 H18.7.4 H23.6.9 H15.7.31 H14.4.25 H15.12.16	"	28 29 33 72 0	ガソリン ガソリン ガソリン ガソリン ガソリン	128 214 232 9 34	19,856 31,244 35,872 1,214 4,584	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0		

品名	形式 及び 規格	取 得 年 月 日	用 途	稼 働 日 数 日	費 料		修理費時 円	左の主な内容 円	備 考
					用 費 量 t	金 額 円			
(砂丘噴出地保全等)									
トラクター	ヤンマー EJ32XUQKGS	H15.9.29	圃場管理	24	軽油	59	7,870	0	
動力運搬車	チクスイ EL1801	H16.6.6	運搬	50	ガソリン	19	2,628	0	
"	ヤンマー CG-146D	H8.4.20	"	16	ガソリン	0	878	0	
耕耘機	ヤンマー YA-70GA	H7.5.31	雑草	3	軽油	3	360	0	
動力刈草機	A10-433M	102.12.3	刈草	43	ガソリン	38	5,544	0	
チップシュレッダ	美立 P-1100C	H7.8.4	枝条破碎	23	ガソリン	17	2,482	0	
管理機	クワタ クレーン式 TAR00-SGJV	H19.9.29	埋上	17	ガソリン	10	1,460	0	
(河原砂丘地分埋)									
トラクター	クワタ ZL24	H24.9.19	雑草・積立 撤去	21	軽油	91	11,830	0	新規
トラクター	クワタ GL32	H3.6.29	雑草・積立 撤去	0	軽油	0	0	0	
"	クワタ GB1G	H9.10.15	"	54	軽油	175	22,750	0	
"	クワタ ZL2402	S57.8.13	特殊処理	7	軽油	40	5,300	0	
ネギ定植機	みのる OP2100	H9.10.15	定植	0	ガソリン	0	0	0	
耕耘機	クワタ TG800	H10.3.30	雑草	2	ガソリン	3	433	33,075	後輪サブアッシ交換 33,075
管理機	イレキ KG750F	S58.5.20	雑草・積立 土壌消毒	6	ガソリン	14	2,041	0	
"	エースローター AE83SH	H4.2.10	土寄せ	3	ガソリン	5	730	0	
ネギ管理機	アグリップ NR605N	H19.6.1	土寄せ	70	ガソリン	70	10,220	28,880	ノベル履れ 28,880
動力運搬車	ヤンマー クローラー CG162	H19.6.6	運搬・架設	71	ガソリン	91	13,289	0	
(河原試験地)									
トラクター	クワタ ZL2602	S57.8.11	雑草	2	軽油	10	1,300	0	
動力運搬車	チクスイ EL180MPW	H14.5.20	生廃物運搬・ 資材運搬	96	ガソリン	71	10,966	0	
スピードスプレイヤー	丸山 SSA-a601	H10.6.28	撒 敷	11	軽油	109	14,170	30,305	ボアデンワイヤー取替 30,305
動力草刈機	スター・ルマナイフ HFCT060	H8.9.6	草 刈	0	ガソリン	0	0	0	
乗用草刈機	アグリップ RM85B	H7.5.5	"	3	ガソリン	10	1,460	0	
"	アグリップ RM86	H15.5.7	"	28	ガソリン	104	15,181	15,862	Vベルト取替 8,562 替え刃オセット取替 9,400
"	フジ MF91DX	H24.6.18	"	13	ガソリン	43	6,278	0	新規
(生物工学科実習)									
スピードスプレイヤー	昭富 SS 4WD8-T	H11.4.27	撒 敷	13	軽油	42	5,460	62,816	62管ホース交換 22,690 パネツ修理・バッテリー修理 29,822
動力運搬車	カワシマ RF4WD-DV	H15.9.20	資材運搬	71	ガソリン	25	3,650	6,792	パネツ修理チューブ交換 4,641 スロットルワイヤー修理 2,152
トラクター	ヤンマー EJ220VUKG5MF	H16.6.24	雑草	17	ガソリン	95	9,400	0	
(日南試験地)									
トラクター	クワタ A-13	H4.8.7	雑草・積立 撤 去	5	軽油	28	3,640	0	
"	ヤンマー 21PS AF322	H14.5.31	"	6	軽油	111	14,430	0	
管理機	クワタ T-55SK(V)	H8.6.15	雑草・積立	7	ガソリン	14	2,041	0	
"	クワタ T-80	H7.8.21	"	3	ガソリン	4.5	657	0	
"	クワタ FTN-7Y	H2.7.6	溝さり・土寄せ	30	ガソリン	39	5,664	0	
動力三輪車	カワシマ SC1620DEV-SE	H6.7.4	運 搬	28	ガソリン	61.6	7,519	0	
除雪機	KSR6	H3.12.9	除 雪	1	ガソリン	3	439	0	
計					軽油	1,861.0	274,959		
					ガソリン	2,769.8	392,541	866,000	

(平成24年12月31日現在)

生産部門	品名・個類	作付面積 ha	生産計画 数量 kg	前年度か らの繰越 量	生産数量			場内			長分数量				計 金額 円	換 算 率	備考	
					購入	生産	計	使用	売却		目的外使用	数量	金額	数量				金額
									kg	円								
野菜研究室	二十世紀	10,900	30,520.0	0.0	23,852.6	1,640.7	2,751.9	332.2	23,852.6	10,614,240	0.0	10,614,240	0.0	10,614,240	0.0	10,614,240	0.0	10,614,240
	赤水	950	350.0	0.0	385.2	395.2	99.2	114.0	24,045.0	0.0	182.0	395.2	24,045.0	0.0	395.2	0.0	24,045.0	
	黒水	100	300.0	0.0	364.7	364.7	186.7	198.0	63,726.0	0.0	0.0	364.7	63,726.0	0.0	364.7	0.0	63,726.0	
	赤唐辛子	900	2,950.0	0.0	1,977.3	1,977.3	208.8	1,119.0	420,126.0	0.0	69.5	1,977.3	420,126.0	0.0	1,977.3	0.0	420,126.0	
	あじふめ	290	760.0	0.0	641.7	641.7	27.5	210.0	5,170.0	0.0	404.2	641.7	5,170.0	0.0	641.7	0.0	5,170.0	
	なつめ	2,000	2,600.0	0.0	3,461.9	3,461.9	1,624.6	1,626.4	979,484.0	0.0	216.9	3,461.9	979,484.0	0.0	3,461.9	0.0	979,484.0	
	豆鼓	2,000	4,000.0	0.0	2,257.2	2,257.2	1,390.1	427.5	53,700.0	42.0	397.6	2,257.2	53,700.0	0.0	2,257.2	0.0	53,700.0	
	夏さやか	2,300	1,950.0	0.0	1,448.8	1,448.8	377.4	377.0	229,700.0	40.0	455.4	1,448.8	229,700.0	0.0	1,448.8	0.0	229,700.0	
	秋菜	280	900.0	0.0	313.5	313.5	143.5	158.0	63,798.0	0.0	14.0	313.5	63,798.0	0.0	313.5	0.0	63,798.0	
	新甘菜	1,250	2,500.0	0.0	3,476.2	3,476.2	1,389.1	1,796.8	677,840.0	0.0	455.3	3,476.2	677,840.0	0.0	3,476.2	0.0	677,840.0	
果樹研究室	深月	750	1,500.0	0.0	1,595.2	1,595.2	482.8	843.0	107,147.0	20.0	0.0	209.4	1,595.2	107,147.0	0.0	1,595.2	0.0	107,147.0
	その他ナン	1,700	1,700.0	0.0	4,233.3	4,233.3	2,855.5	657.0	133,035.0	0.0	488.3	965.3	133,035.0	0.0	965.3	0.0	133,035.0	
	リンゴ	1,150	1,725.0	0.0	686.3	686.3	0.0	590.0	198,124.0	0.0	309.4	900.4	198,124.0	0.0	900.4	0.0	198,124.0	
	ウメ	500	500.0	0.0	806.4	800.4	19.8	472.2	70,978.0	0.0	18.7	922.7	70,978.0	0.0	922.7	0.0	70,978.0	
	ナシ	1,500	750.0	0.0	527.7	527.7	0.0	503.0	58,230.0	0.0	385.0	58,230.0	0.0	58,230.0	0.0	58,230.0		
	ナシ	500	500.0	0.0	464.8	464.8	0.0	385.0	58,230.0	0.0	385.0	58,230.0	0.0	58,230.0	0.0	58,230.0		
	西条	500	500.0	0.0	645.5	645.5	0.0	585.0	103,800.0	0.0	79.5	645.5	103,800.0	0.0	645.5	0.0	103,800.0	
	小計	28,350.0	55,595.0	0.0	54,695.6	54,695.6	10,932.1	36,333.2	13,718,622.0	2,852.9	0	5,084.4	54,960.8	13,718,622.0	0.0	54,960.8	0.0	13,718,622.0
	スイカ	4,500	24,300.0	0.0	21,388.5	21,388.5	11,142.0	12,906.5	1,375,840.0	0.0	8,490.0	32,540.5	1,375,840.0	0.0	32,540.5	0.0	1,375,840.0	
	中玉トマト	280	500.0	0.0	941.3	941.3	15.1	450.4	152,989.0	0.0	495.8	941.3	152,989.0	0.0	941.3	0.0	152,989.0	
ミニトマト	300	650.0	0.0	943.7	943.7	54.5	581.0	226,725.0	0.0	309.2	943.7	226,725.0	0.0	943.7	0.0	226,725.0		
アスパラ	200	400.0	0.0	398.8	398.8	0.0	320.7	251,402.0	0.0	78.1	398.8	251,402.0	0.0	398.8	0.0	251,402.0		
イチゴ	600	1,000.0	0.0	621.1	621.1	33.0	272.0	170,400.0	0.0	316.2	621.1	170,400.0	0.0	621.1	0.0	170,400.0		
ブルーベリー	420	2,800.0	0.0	1,124.6	1,124.6	25.3	822.5	96,020.0	0.0	476.9	1,124.6	96,020.0	0.0	1,124.6	0.0	96,020.0		
ホウレンソウ	320	2,000.0	0.0	255.4	255.4	10.4	246.0	97,810.0	0.0	3.0	255.4	97,810.0	0.0	255.4	0.0	97,810.0		
甘長とうもろこし	120	480.0	0.0	781.4	781.4	0.0	338.8	105,890.0	0.0	444.6	781.4	105,890.0	0.0	781.4	0.0	105,890.0		
小計	10,550	30,350.0	0.0	26,464.8	26,464.8	11,260.3	2,466,612.0	0.0	10,912.7	37,806.8	2,466,612.0	0.0	37,806.8	0.0	37,806.8	0.0	2,466,612.0	
トマト	200	2,500.0	0.0	7,199.0	2,306.0	50.0	2,000.0	30.0	4,813.0	7,199.0	2,000.0	2,000.0	4,813.0	7,199.0	0.0	2,000.0	0.0	4,813.0
トルコキキョウ	200	2,000.0	0.0	3,446.0	1,381.0	380.0	28.400	0.0	1,831.0	3,446.0	28.400	1,831.0	3,446.0	28.400	0.0	1,831.0	0.0	3,446.0
ユリ	400	3,000.0	0.0	5,340.0	5,340.0	1,145.0	39.400	120.0	3,484.0	5,340.0	39.400	3,484.0	5,340.0	39.400	0.0	3,484.0	0.0	5,340.0
キク	200	1,000.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
花壇草	100	1,500.0	0.0	1,350.0	240.0	53.0	0.0	990.0	62.0	1,350.0	62.0	1,350.0	62.0	1,350.0	0.0	1,350.0	0.0	1,350.0
小計	1,100	10,500.0	0.0	17,235.0	17,335.0	1,735.0	89,800.0	1,140.0	10,295.0	17,335.0	1,735.0	17,335.0	89,800.0	17,335.0	0.0	17,335.0	0.0	89,800.0

生産部門	品名・種類	作付面積 m ²	生産計画 数量	前年比か らの増減	生産収益		増内 ・使用 計	売却		処分数量		分類 ・換	備考		
					生業 購入 価	計		数量	金額 円	数量	金額 円			処分数量	
														数量	金額 円
環境研究室	スイカ	2,700	2,000.0	0.0	5,248.1	5,248.1	1,446.1	3,494.9	488,439.5	3.8	1,746.4	8,094.3	486,445.5	-1,446.2: 増内使用分使用、廃棄(1,446.2t)	
	サツマイモ	200	250.0	0.0	221.3	221.3	0.0	207.0	14,655.5	0.0	14.3	221.3	14,655.5	0.0	
	サトイモ	300	100.0	0.0	47.3	47.3	0.0	33.0	3,300.0	0.0	14.3	47.3	3,300.0	0.0	
	スイートコーン	400	400.0	0.0	275.4	275.4	0.0	245.0	59,415.0	0.0	30.4	275.4	59,415.0	0.0	
	トマト	200	150.0	0.0	185.9	185.9	0.0	132.0	31,981.0	0.0	53.9	185.9	31,981.0	0.0	
	ナガイモ	1,200	2,400.0	1,050.0	3,231.3	4,281.3	665.0	2,444.0	307,671.0	0.0	246.3	3,381.3	307,671.0	900.0	
	ナシ	2,450	3,600.0	0.0	2,744.2	2,744.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2,744.2	0.0	0.0	
	ニンニク	100	40.0	0.0	43.7	43.7	0.0	42.5	17,000.0	0.0	49.0	174.0	16,305.0	0.0	
	ピーマン	100	60.0	0.0	47.7	47.7	0.0	40.0	6,593.0	0.0	7.7	47.7	6,593.0	0.0	
	ダイコン	100	100.0	0.0	101.0	101.0	0.0	60.0	2,520.0	0.0	27.0	101.0	2,520.0	0.0	
ホウレンソウ	1,400	100.0	0.0	131.8	131.8	0.0	124.8	0.0	0.0	0.0	7.0	131.8	0.0	0.0	
小計	9,290	9,290	1,050.0	12,451.7	13,591.7	4,879.3	6,988.2	945,445.5	3.9	2,196.5	14,047.9	945,445.5	-548.2		
ナガイモ	200	100.0	34.0	30.0	64.0	37.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	44.0	0.0	20.0	
おぼろごぼろ	250	100.0	25.0	103.0	128.0	50.0	70.0	8,920.0	0.0	0.0	0.0	128.0	8,820.0	0.0	
ラッパ芋ゴウ	60	150.0	0.0	39.8	39.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.8	0.0	0.0	
小計	510	350	59.0	172.8	231.8	126.8	70.0	8,920.0	0.0	0.0	15.0	211.8	8,820.0	20.0	
白ネギ	7,000	22,000.0	0.0	14,677.0	14,677.0	0.0	10,890.0	1,811,335.5	0.0	3,787.0	14,877.0	1,811,335.5	0.0		
白ネギ苗	400	5,000.0	0.0	2,900.0	2,900.0	0.0	2,900.0	13,230.0	0.0	0.0	2,900.0	13,230.0	0.0	0.0	
サツマイモ	300	750.0	0.0	510.0	510.0	510.0	0.0	0.0	0.0	0.0	510.0	0.0	0.0	0.0	
サツマイモ苗	40	3,000.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
サトイモ	300	1,050.0	0.0	800.0	800.0	800.0	0.0	0.0	0.0	0.0	800.0	0.0	0.0	0.0	
ニンジン	900	2,000.0	0.0	2,992.0	2,992.0	0.0	2,990.0	96,175.0	0.0	302.0	2,592.0	96,175.0	0.0		
小計	8,340	34,900.0	0.0	21,093.0	21,093.0	1,310.0	16,670.0	1,995,597.0	0.0	0.0	4,086.0	21,093.0	1,995,597.0	0.0	

生産部門	品名・親源	作付面積 ㎡	生産計画 数量 kg	新年度小 らの繰越 kg	生産数量		場内		別分数量						分類 差引	備考
					生産 購入 kg	計 kg	使用 kg	形式		目的外使用		計				
								数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg		
葡萄		3,000	3,000.0	0.0	2,275.0	2,275.0	82.0	0	0	0.0	0.0	388.0	2,275.0	0	0.0	
河原越路海		3,000	3,000.0	0.0	3,853.0	3,853.0	495.0	0	0.0	0.0	0.0	483.0	3,853.0	0	0.0	
花柳所		1,500	1,500.0	0.0	1,330.0	1,330.0	225.0	0	0.0	0.0	0.0	565.0	1,330.0	0	0.0	
その他が牛		7,400	2,500.0	0.0	2,310.0	2,310.0	751.0	0	0.0	0.0	0.0	168.0	2,310.0	0	0.0	0.0 標本酒、本家、新秋、真秋出
小計		14,900.0	10,000.0	0.0	9,476.0	9,476.0	1,571.0	0	0.0	0.0	0.0	1,555.0	9,476.0	0	0.0	
ナガイモ		700	2,500	515.0	3,391.0	3,904.0	927.0	1,465.0	38,891	0.0	0.0	572.0	2,854.0	38,891	920.0	
砂丘地蔵		550	1,650	821.0	1,266.0	2,097.0	340.0	496.0	484,910	0.0	0.0	201.0	1,037.0	484,910	1,050.0	
研学センター		1,820	1,300	0.0	2,304.1	2,304.1	288.4	1,224.9	872,272	25.0	0.0	757.8	2,304.1	872,272	0.0	
ツルギヨウ		1,000	1,000	0.0	1,086.0	1,086.0	568.0	50.0	10,000	0.0	0.0	490.0	1,086.0	10,000	0.0	
小計		4,070	6,450	1,336.0	8,066.1	9,403.1	2,133.4	3,255.9	1,408,073	23.0	0	2,020.6	7,433.1	1,408,073	1,970.0	
白菜		1,800	3,000.0	0.0	3,305.0	3,305.0	1,453.0	2,562.0	840,978	0.0	0.0	4,258.0	5,305.0	840,978	0.0	
キャベツ		200	1,000.0	0.0	897.0	897.0	623.0	0.0	0.0	0.0	0.0	74.0	897.0	0	0.0	
コンニャク		100	100.0	0.0	68.0	68.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.0	68.0	0	0.0	
トマト		700	3,500.0	0.0	5,571.0	5,571.0	44.0	2,288.0	870,484	0.0	0.0	1,040.0	1,641.0	0	0.0	原産地本
ピーマン		200	1,000.0	0.0	1,563.0	1,563.0	0.0	850.0	104,790	0.0	0.0	913.0	1,563.0	104,790	0.0	
ブロッコリー		1,200	840.0	0.0	860.0	860.0	680.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	680.0	0	0.0	
小計		4,320	14,940.0	0.0	18,525.0	18,525.0	3,448.0	5,600.0	1,416,182	0.0	0	5,577.0	18,525.0	1,416,182	0.0	
計		80,580.0	170,195.0	2,443.0	188,267.0	170,704.0	40,103.9	90,805.1	22,191,831	4,217.8	0	45,440.4	180,867.2	22,181,831	-9,853.2	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(果)ナシのジョイント整枝による省力栽培技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	22年度 ～24年度		(予算額)	(1,225,000円)
			支出済額	980,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシのジョイント整枝による省力栽培技術の確立	本場	ほ場 40a	本場の主力品種である「二十世紀」におけるジョイント栽培に適した仕立て方法を検討する。 また、新品种のジョイント栽培における果実品質調査を行う。	(成果) ・「おさゴールド」ではジョイント3年目で、主幹・先端ジョイント樹間2.5mの区において樹間面積拡大、収量とも多くなり慣行の3本主枝とほぼ同じ収量となった。 ・新品种をポット育苗でジョイント可能な植栽間隔で植え付けた場合、3年目で10a当たり1570～2057kgの収量が得られ、果実品質にも問題は見られなかった。 (課題) ・各品種における収量推移の調査 ・着果数の目安の作成

事業名	(単)「新甘泉」等赤ナシ新品种の省力安定栽培技術確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	21年度 ～25年度		(予算額)	(2,536,000円)
			支出済額	1,521,600円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
赤ナシ新品种栽培の技術確立によるマニュアル化		ほ場 30a	「新甘泉」の着果密度、「早優利」の果実品質向上技術を検討する。	(成果) ・新甘泉の着果密度は割枝1m当たり8果、単位面積当たりでは10果/m程度が適当と考えられた。 ・「早優利」は満開後20日に摘果しジベリリン処理することで350g程度の果実が得られた。 (課題) ・「新甘泉」の適正着果基準の検討 ・「新甘泉」における管理しやすい新梢管理方法の検討
赤ナシ品種の省力栽培体系の確立	本場	ほ場 30a	「新甘泉」・「秋甘泉」混植による受粉作業の省力化の検討	(成果) ・新甘泉、秋甘泉の混植栽培において昨年同様に、新甘泉の人工受粉の省力化が可能と考えられた。 (課題) ・混植無交配による結実試験の継続 ・自家和合性品種の品種特性検討
「王秋」の果肉崩壊症の発生低減技術の確立		ほ場 50a	「王秋」の果肉崩壊症の発生原因を究明と防止法を確立	(成果) ・本年度、再度コルク状障害が多発し、発生低減対策の効果確認が必要となった。 (課題) ・防止法の継続試験
輸出用穂木の安定生産技術の確立		ほ場 10a	「新興」の花芽安定着生技術、穂木取り専用整枝法の検討	(成果) ・穂木取り専用仕立てでは、H型整枝で最も収量が多くなった。 (課題) ・専用仕立てによる収益性の継続検討

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(株)「なつひめ」等青ナシオシジナル品種の栽培技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	21年度 ～ 25年度		(予算額)	(3,763,000円)
			支出済額	2,267,800円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
青ナシ新品種の生育特性説明		ほ場 50a	「なつひめ」の糖度向上対策と市場性のある収穫時期の検討	(成果) ・「なつひめ」はかん水により糖度が低下しやすく、収穫前に土壌水分を少なくすることで糖度向上すると考えられた。 ・「なつひめ」の収穫時期は8月27日から9月8日で、それより早いと糖度が低く、遅いと日持ち性が劣った。 (課題) ・「なつひめ」収穫期間の把握
本県育成品種の早期多収、省力整枝法の確立		ほ場 50a	新品種の特性に応じた整枝法を確立する。	(成果) ・「なつひめ」「涼月」ともに、多主枝では糖度が低く、整枝方法として適していないと考えられた。 (課題) ・品種に適した整枝法の継続検討 ・高品質果実生産のための整枝法の検討
新品種の高品質果実の安定生産技術の確立	本場	ほ場 30a	品種に適した果実袋、栽培管理技術を確立する	(成果) ・「なつひめ」の果実袋被袋時期を、小袋、大袋について検討した結果、果実品質に大きな差は認められなかった。果実の肥大、糖度と袋の早晚の関係は二十世紀と同様の傾向であった。 (課題) ・「なつひめ」を早期収穫可能にするための栽培管理法
省力軽労で取り組みやすい土壌管理法の検討		ほ場 30a	新品種の根の伸長時期の把握、施肥量の削減技術継続検討	(成果) ・なつひめの根の伸長は、二十世紀に比べ、3月の発根量が多く、秋は早く停止した。 ・根域集中により施肥量を半減させた結果、慣行栽培と果実、樹勢ともに差はなかった。 (課題) ・施肥量削減技術の継続検討
消費者の求める美味しいナシづくりに向けた技術確立		ほ場 50a	「おさゴールド」の着果安定技術の検討	(成果) ・本年は全般に結実率が高かったが、人工受粉区で果重が多く、変形果率も低かった。 ・糖度向上試験に取り組んだが、はつきりとした効果は認められなかった。 (課題) ・結実安定技術の継続検討 ・高糖度果実生産のための栽培技術検討

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名		(単)鳥取スイカのブランド強化に必須となる安定出荷技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間		平成16年度 ～平成22年度		(予算額) 支出済額	(1,625,000円) 975,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
生産安定技術確立 (H23～26)	本場	ハウス 15a 露地ほ場 18a	<ul style="list-style-type: none"> 不良花粉の発生予測および簡易保温と花粉充実との関連を明らかにする。 収穫前裂果の要因を解明する 黒点根腐病に強い台木の検索する ハウス栽培におけるかん水切り上げ時期と収量、品質の関係を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交配前後のトンネル簡易保温による花粉発芽率および着果率の向上を検討したが、本年度は気象条件に恵まれたため、着果不良がなかった。 両性花程度が大きいほど花落ち部の直径が大きく、裂果を誘発しやすかった。 ユウガオ台木「KHN」は黒点根腐病に強く、果実品質にも問題がないため有望であった。 黒ボク畑のハウス栽培におけるかん水はF2.7を目安に1回当たり20mmをかん水するのが適当であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡易なトンネル保温強化方法の検討 収穫前裂果のメカニズム解明 ハウス栽培かん水指針の黒ボク土以外の土壌への適応性確認 	
出荷予測技術確立 (H23～26)	本場	ハウス 3.6a 露地ほ場 6a	<ul style="list-style-type: none"> 主要品種の果実肥大経過と収穫果重との関係を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行品種は交配後25日に収穫果実の80%の大きさに達することを目安におおよその予想を立てるのが適当と考えられた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 予測精度の検証 	
省力栽培技術確立 (H23～26)	本場	露地ほ場 12a	<ul style="list-style-type: none"> トンネル栽培における5本整枝3果どり、低節位着果栽培による省力化。 ハウス一畝植え栽培の改善 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 着果節位を14～15節としても果実の肥大、品質に問題はなく実用可能であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5本整枝3果どりの安定生産 低節位着果栽培の年次変化の確認 	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)気温上昇対策と施肥削減による黒ボク畑特産野菜の生産安定技術の確立	担当室別	野菜研究室	
実施計画期間	平成22年度 ～平成25年度	(予算額)	(1,844,000円)	
		支出済額	1,106,400円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
施設野菜の高温期安定生産技術の確立(H22～25)		ハウス 11a	<ul style="list-style-type: none"> ハウス被覆の散水処理による夏期昇温抑制効果を明らかにする。 中玉トマトの高温障害対策、ミニトマトの着果安定対策を確立する。 高温期のホウレンソウかん水技術を明らかにする。 前着性、品質の優れたミニトマト、中玉トマト、ホウレンソウ品種を検索する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 透光率40%ではハウス被覆の散水処理でミニトマトの可取収量が114%増加した。 トマトトーンに辰着剤を添加することでつやなし果が少なくなった。 高温期のホウレンソウのかん水は0～1日間隔で1回5mm程度とするのが適当であった。 ホウレンソウの6月は種は'セブンリッジ2号'、8月は種は'ジョーカーセブン'、'イーハセブン'、'サンホープセブン'が有望であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ハウス被覆の散水処理による昇温抑制の栽培実証
ブロッコリーの周年栽培体系の確立(H22～25)	本場 および 現地ほ場	露地ほ場 24a	<ul style="list-style-type: none"> 高温期の出荷に適した品種の選定、栽培技術の確立を行う。 気象変動と花芽分化時期および収穫期の関係を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 'サマードーム'は花芽分化が気温が高い方が花芽分化時期が早まった。 9月どり作型で栽培期間中にかん水することで収穫時期が8月に早まった。 4月どり品種は'YBR-4'、'YBR-41'が有望であった。不織布べたがけで花蕾品質が良くなり出荷率が向上した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 気象条件に基づく生育、出荷時期予測 高温期の栽培方法
新しい施肥設計支援技術の確立(H22～25)		露地ほ場 12a 現地ほ場10カ所	<ul style="list-style-type: none"> 可給態窒素の簡易診断法を開発する。 施設野菜の土壌養分の現地実態を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地施設野菜の土壌中無機態窒素は夏作の残肥を冬作で利用し、年間を通してみると収支が保たれていた。可給態リン酸、交換性加里の蓄積が顕著であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 可給態窒素を指標とした施肥基準、可給態窒素の簡易測定法の検討 施設土壌化学性の改善
コスト低減施肥体系の確立(H22～25)		露地ほ場 12a	<ul style="list-style-type: none"> 堆肥利用によるリン酸、加里肥料の削減効果、ブロッコリーの収穫残渣鋤込みによる施肥削減効果を明らかにする。 施肥削減可能なブロッコリー品種を検索する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> スィーカーブロッコリー体系でスイカに堆肥を施用すれば、リン酸、加里無施用でも3年目も生育、収量に問題はなかった。 ブロッコリー収穫残渣の鋤込み、堆肥を施用した場合、施肥量を5割にしても収量、品質に問題はなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施肥削減を継続した場合の経年変化の確認

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(果)「食のみやこ」を支える多様な野菜品目の生産安定技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成23年度 ～平成26年度		(予算額) 支出済額	(1,212,000円) 727,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
伝統野菜「三宅甘長とうがらし」の露地栽培安定生産 (H23～26)	本場	露地ほ場 1.8a	・露地栽培に適した整枝方法を明らかにする。	(成果) ・4本V字型整枝は収量性が高く露地栽培でも適正が認められた。 (課題) ・初期生育の生育促進による収穫の前進化
アスパラガスの生産安定 (H23～26)	本場	露地ほ場 2.0a	・新植時の土壌改良の簡素化を図る。 ・鳥取県に適した品種を選定する。	(成果) ・定植2年目の結果では、定植部分に堆肥を盛り、堆肥を覆うように敷いた区が収量が最も多かった。また、品種比較では「シャワー」、「ゼンユウヨーデル」が収量が多く、有望であった。 (課題) ・定植3年目以降の生育、収量の経年変化の確認
良食味サツマイモ「ウィックスイート」の効率的採苗技術の確立 (H23～25)	可浜砂丘地分場	ハウス 0.1a	・新品种に適応した採苗技術を確認する。	(成果) ・施設施用によりつる伸長促進効果が認められた。 (課題) ・新品种「ベニハルカ」についての採苗技術の確立。
イチゴの出荷量拡大技術の確立 (H23～26)	本場	ハウス 4.0a	・EOD加温による冬期草勢維持による増収技術の確立。 ・春季霜低下防止のためのピピフルフロアルの効果的使用方法を明らかにする。 ・「章姫」の着色異常の原因を明らかにする。 ・鳥取県に適した品種を選定する。	(成果) ・日没後3時間の20℃加温は収量が減少すること無く、燃料消費量を65%に抑えることができた。 ・ピピフルフロアルは2月中旬、3月中旬に500倍液を1株当たり10ml葉面散布すると、収量減少が無く適当であった。 ・「かおり野」は総収量が「章姫」よりも多く有望であったが、奇形果が多く再検討が必要であった。 (課題) ・効果的なEOD加温技術の確立 ・「章姫」の着色異常果の発生原因の究明と対策確立
ニンジン生理障害等の原因究明と対策確立 (H23～25)	可浜砂丘地分場	露地ほ場 2.9a	・夏播き栽培における生理障害(ミズバシ症)の原因究明。 ・適正な施肥量、施肥時期を明らかにする。 ・生理障害の発生が少ない品種を選定する。	(成果) ・多肥により生理障害の発生が助長される可能性が確認された。 ・「SW試行1号」が多収、形状が良好、生理障害の発生も少なかった。 (課題) ・適正な施肥管理および土壌水分の影響について調査する。 ・経年的な品種比較の実施。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(委)全日本野菜品種審査会(12月どりブロックリー)受託事業		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成24年度		(予算額) 支出済額	(165,000円) 99,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
12月どりブロックリーの品種審査	本場	露地ほ場 0.6a	(社)日本種苗協会が主催する全日本野菜品種審査会を本県で開催し、本県に適した品種を選定する。	(成果) ・グリーンキャンノ、BL-452、BL-646、MSB-1044、K2-104が上位3等となり鳥取県での適正が認められた。 (課題) ・他の作型における適品種の選定

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(準)EOD反応を活用した花き類の鳥取型栽培技術の確立		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成22年度 ～平成25年度		(予算額) 支出済額	(2,882,000円) 1,729,200円
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う場所	試験研究 調査の対象・ 数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
キク(春彼岸出荷)、 花壇苗類(早春出荷) のEOD加温(保温) による低コスト生産技 術の確立	本場	ハウス 1a	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料費削減に効果的なEOD加温法の確立 ・内張りトンネル等を利用した保温によるEOD加温法の確立 ・温床トンネル等を利用した効率的な育苗法の開発 	<p>(成果)【キク(春彼岸出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キクは、慣行の終夜18℃加温に比べ、EOD(日没後)3時間20℃その後最低10℃とすると、暖房コストは慣行より3割低く、切り花品質や開花期は慣行と差が無いことが明らかになった。 <p>(課題)【キク(春彼岸出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに低コストで切り花への影響の少ないEOD加温方法を検討する。 <p>(成果)【花壇苗類(早春出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花壇苗のうちピンカなど8草種は、終夜一定加温に比べ、EOD加温で生育が旺盛になることが明らかになった。 <p>(課題)【花壇苗類(早春出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EOD加温の効果を高めるEOD照明との併用法を検討する。
トルコギキョウ(年末・ 早春出荷)、ストック、 シンテツポウユリ(秋 冬出荷)のEOD光照 射による開花制御技 術の確立	本場	ハウス 3a	<ul style="list-style-type: none"> ・年内出荷率向上に効果的な光照射条件の検討 ・EOD光照射が栽培期間短縮に及ぼす影響の検討 ・光照射と加温(保温)の組合せによるEOD栽培法の確立 	<p>(成果)【シンテツポウユリ(秋冬出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月10日からの遠赤色光照射により、節間伸長効果がみられた。 ・抽台促進の効果も、赤色光と遠赤色光で差が無かった。 ・赤色光照射による花首抑制効果は見られなかった。 <p>(課題)【シンテツポウユリ(秋冬出荷)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光強度と生育の関係について調査する。 <p>(成果)【ストック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開花促進には、遠赤色(FR)光を放射照度0.03W/㎡以上で、日没後3時間照射するEOD照明が効果的であった。また、市販の白熱灯を用いてもFR光と同等の効果が得られた。 <p>(課題)【ストック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産現場で取り組みやすいEOD光照射の時間帯、照射期間を検討する。
花壇苗(宿根草類)に おけるEOD処理の反 応性が高い品目の検 索	本場	ハウス 1.8a	<ul style="list-style-type: none"> ・EOD反応性の高い新規品目の検索 ・効率的な処理方法の検討 	<p>(成果)【花壇苗(宿根草類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月に開花するカンパニュラ、アキレギア等の宿根草類を、12月上旬から無加温ハウスに取り込むと、3月下旬から開花した。 ・また、電照を併用すれば、さらに開花が早まった。 <p>(課題)【花壇苗(宿根草類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電照反応性の高い品目について、EOD光照射の効率的な処理方法を検討する。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)未利用農地等を有効利用する花き類の(露地)栽培技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成21年度 ～平成25年度		(予算額) 支出済額	(1,220,000円) 732,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数値・組別	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
露地栽培向き新品目の検索	本場	ほ場 4a	・栽培に手間がかからず 粗放的で露地植え置き 栽培が可能な宿根草類 や枝物を検索する。	(成果)[宿根草] ・宿根草類を試作し、商品性が高く出荷に適した品目を選定した。 (課題)[宿根草] ・引き続き開花特性や切り花品質を調査し、年間労働時間等を調査・検討する。 ・ニューサイラン等の葉物や枝物の特性を明らかにする。
露地での高品質栽培法の確立	本場	ほ場 2a	・実つき枝物やシンテッポウユリの高品質化のための露地管理法を明らかにする。	(成果)[実つき枝物] ・果樹欄を利用したツルウメドキの誘引法を検討した結果、労働時間が慣行(放任)の15分の1になり、品質が著しく向上した。 (課題)[実つき枝物] ・さらに省力的なツルウメドキの地道い誘引法の継続調査。 ・サルトリイバの省力誘引法の継続調査。 (成果)[シンテッポウユリ(季咲き)] ・追肥に安価な破安を用いても、慣行の高度化成肥料と同等の品質となった。 ・ロング肥料(LP140)を基肥に施用すると、追肥なしでも慣行と同等の切り花品質になった。 (課題)[シンテッポウユリ(季咲き)] ・各施肥試験の現地実施
省力定植・出荷分散法の確立	本場	ほ場 2a	・シンテッポウユリの定植 労力軽減法の確立。 ・シンテッポウユリの収穫 期分散法の確立。	(成果)[シンテッポウユリ(季咲き)] ・定植後に不織布をべたがけすると着着が促進し、採花が早まった。 ・秋彼岸前出荷のための定植を、'F1セブタ'では6月上旬、'優雅(晩生)'では6月下旬とすると出荷率が向上した。 ・'優雅(晩生)'を定植2週間前に6℃冷蔵すると、栽培期間が短縮し出荷率が向上した。 (課題)[シンテッポウユリ(季咲き)] ・品種・定植日・低温処理を組み合わせて、露地で秋彼岸前に出荷する作型を確立する。
品目組み合わせ技術の確立	本場	ほ場 10a	・労働時間、経営試算等による栽培組み合わせの提案	(成果) ・労働時間、栽培コスト等のデータを集積中。 (課題) ・データを継続して蓄積し、経営試算を行い、品目の組み合わせを提案する。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)気象変動に左右されない花き類の高品質化技術の開発		担当室別	花き研究室
	実施計画期間	平成21年度 ～平成27年度		
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
シンテッポウユリ(秋冬出荷)のプラスチック・花首徒長対策の検討	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・秋以降に多く発生する花首徒長やプラスチックによる品質低下の対策を検討する。 ・抽台率低下の原因を明らかにし、抽台促進技術を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蕾が見えてから花首が伸び始めるまでの期間にわい化剤を散布すると、花首伸長が抑制された。 ・8月中～9月上旬の気温が高く、日照が少ないとブラインドが多発した。 ・定植前2週間の苗冷蔵(5℃)か、定植前1ヶ月間の夜冷(夜間18℃以下)で、抽台率向上効果が認められた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わい化剤の希釈倍率、散布時期の検討 ・簡易夜冷装置による低温処理の検討 ・抽台率促進技術の現地検討
トルコキキョウ(秋出荷)草丈伸長技術の確立	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・高温下でも十分な草丈が得られる栽培法を確立する。 ・育苗中の温度管理とCO₂施用による草丈伸長法の検討 ・定植後の温度と日長管理による草丈伸長法の検討 	<p>(成果)(育苗管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷房育苗中に「簡易CO₂剤」によるCO₂施用と、蛍光灯照射により生育が早まり、葉枚数が増え、地下部や地上部重量が増加した。 <p>(課題)(育苗管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポットクーラーを利用した、簡易夜冷育苗による継続調査。 <p>(成果)(定植後管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷房育苗中にCO₂施用+赤色光照射し、定植後の生育期前半を赤色光照射、後半を赤色光照射とすれば、慣行に比べ1.3倍の切り花長が得られた。 ・赤色光の代わりに蛍光灯、遠赤色光の代わりに白熱灯を用いても、試作ライトと同等の効果が得られた。 ・機能性寒冷紗および細網冷房は、着花節位をわずかに高め切り花長が伸長したが、その効果はわずかであった。 <p>(課題)(定植後管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な光照射時間や照射密度の検討 ・細網冷房等の処理期間や処理方法の再検討
ストックの花首徒長・うらごけ対策の検討	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分やECの推移が草茎に及ぼす影響を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育後半の施肥・灌水管理が、花首徒長やうらごけの発生に影響していると考えられた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草茎を改善するための効果的な液肥施用法の検討
花壇苗のわい化と花蕾増加法の検討	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗期間の延長や日長制御による高品質栽培法を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベチュニアの鉢上げを2週間遅らせると、わい化剤散布と同等のわい化効果が得られた。これは、春～初夏の処理でわい化効果が高かった。 ・アグラタム育苗中に夜間電照すると、分枝数が増加し花蕾が増えた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わい化効果が高い鉢上げタイミングのマニュアル化。 ・育苗期間延長と日長処理の組み合わせによる品質向上試験。

事業名	(単)市場競争力のある鳥取オンライン園芸新品種の育成		担当室別	果樹研究室、河原試験地、砂丘地農業センター、野菜研究室、花き研究室、弓浜砂丘地分場
実施計画期間	平成22年度 ～平成26年度		(予算額) 支出済額	(1, 333, 000円) 799, 800円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数値・単位	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシ新品種の育成	果樹研究室	場内露地ほ場 10a	・ナシ新品種、新系統の鳥取県における適応性を検討する。	(成果) ・極早生品種として「早優利」「静高水」「愛甘水」「筑波54号」に加え、神奈川県育成の「香麗」が有望であった。 ・晩生品種としては、「B2004-11」「真甘」「筑波58号」が有望であった。 (課題) ・新たに本県育成の3系統、神奈川県が育成した「香麗」「なつみず」、長野県育成の「サザンサイト」の特性を調査する。
カキ新品種の育成	河原試験地	場内露地ほ場 50a および 現地試験	・育種系統の特性調査を行い、選抜を進める。	(成果) ・15系統の果実の品質調査を行った。熟期が9月上旬の極早生や糖度が20%を超える果実があった。 ・育種用に交配した30種子を播種し、15個体を得た。この穂木を成木に高接ぎし、すべてが活着した。 (課題) ・継続して特性調査を行う。
新しい青ブドウの選抜	砂丘地農業研究センター	場内ハウス 3a	・12g以上で糖度18度以上の青ブドウの創出	(成果) ・4系統を圃場に定植したが、今年度は着果せず株を養成した。 (課題) ・圃場定植後の果実品質調査。
スイカ新品種の育成と実用化	野菜研究室	場内ハウス 4.4a 場内露地ほ場 3.0a	・有望系統の栽培実用性確認。 ・黒点根腐病に強いスイカ台木の育成。	(成果) ・系統「101212」は、ハウス栽培において定植後の生育は良好で萎凋発生も少なかったが、食味が「どんなんもん台」よりもやや再び再検討した。 ・「どんなんもん台」と「101212」のF1は、黒点根腐病耐性を示した。 (課題) ・有望系統の実用性および現地適応性確認
イチゴ新品種の育成と実用化		場内ハウス 4.0a	・多収で食味の良いイチゴ育成のための、交雑実生による育成と選抜。 ・昨年までに有望とみられた系統の現地適応性確認。	(成果) ・2系統の現地適応性試験の結果、食味が良く有望であるとの評価を得た。 (課題) ・有望系統の継続選抜と現地適応性確認
シバ優良系統の育成		場内露地ほ場 3a	・葉枯病耐性・生育旺盛・抽しの良いコウライシバの育成	(成果) ・地下部の生育が旺盛で株張りが早く、紅葉が非常に遅い系統を選抜した。 ・この系統は、ゴルフ場の葉枯病常発場所に定植しても発病せず、耐病性が高いと判断した。 (課題) ・継続調査。
実つき枝物の優良系統の育成	花き研究室	場内露地ほ場 2a	・既存品種が皆無であることから、本県で確立した樹形管理に適した品種を育成する。	(成果) ・ノイバラは実数が多く、枝の姿が良い「T-3」を有望と認めた。 ・ワイルドメドキは実が大きく、実数が多い「T-10」を有望と認めた。 ・サルトリイバラは県内自生種の中から、幹が極めて少ない系統を選抜した。 (課題) ・品種登録のための生育調査
白ネギ坊主不知の優良晩生品種の育成	弓浜砂丘地分場	場内露地圃場 2a	・優良系統間の交配を行う。	(成果) ・交配母本として現地優良系統5系統を収集し、園試保存5系統のワイルドフリー化を行った。これらのうち、3系統を交配し、得られた種子を播種して、50個体を育成中。 (課題) ・優良系統間の交配、一本ネギ品種との交配。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(委)新農業適用試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成10年度～		(予算額)	(5,679,000円)
			支出済額	4,543,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果樹病害虫の防除薬剤の実用化	本場	ほ場33a	果樹の新規薬剤の防除効果等を検討し、各果樹の防除剤を編成する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ナシの黒斑病、黒星病、うどんこ病、コナカイガラムシ類、ハダニ類、ニセナシザビダニについて新規薬剤の効果が明らかとなった。ナシ防除歴には3剤の新規薬剤を採用した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> マイナー害虫の農業適用拡大推進。
野菜・花き病害虫の防除薬剤の実用化	本場 弓浜砂丘地分場	ほ場62a	野菜、花きの新規薬剤の防除効果等を検討し、有効薬剤の適用拡大を図る。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> スイカの菌核病、アブラムシ類、ネギのべと病、さび病、白絹病、小園核菌軟腐病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ、プロコリローの菌核病、ネギアザミウマ、ナガイモのナガイモコガ、ハダニ類、ネコフセンチュウ、ラッキョウのネギアザミウマ等に対する新規有効薬剤の効果が明らかになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県特産農産物の生産上問題となる病害虫の更なる農業適用拡大推進。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名 (補助)有機・特別栽培拡大に必須の病害虫防除技術確立	担当室別	環境研究室		
実施計画期間	(予算額)	3, 281, 000円		
	支出済額	2, 624, 800円		
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ブロッコリーの病害虫に対する農薬に替わる防除技術の確立	本場	ほ場24a	ブロッコリーの病害虫防除に使用できる、農薬に替わる防除方法を確立する。	(成果) ・花蕾腐敗病に対して、微生物農薬が有効であった。 ・根こぶ病耐病性品種は根こぶ病の発病が少なく、発病がみられる場合にも収量低下は少ないことが確認された。 ・害虫に対し、有機・特別栽培で利用可能な農薬の防除効果が明らかになった。 ・被覆資材の利用は、害虫対策に有効であり、効果的な利用時期が明らかとなった。 (課題) ・農薬削減防除体系の確立。
ラッキョウの病害虫に対する温湯消毒等を利用した防除技術の確立	西園ほ場	ほ場3a	ラッキョウの種球伝染性の病害虫について、温湯消毒等の農薬に替わる防除技術を確立する。	(成果) ・室内試験では、温湯消毒は乾腐病に対しても効果が認められた。 ・温湯処理は、ウイルス病に対しては効果が期待できないことが分かった。 (課題) ・ほ場での乾腐病に対する温湯消毒効果の確認。
ナシの病害虫に対する農薬に替わる防除技術の確立	本場	ほ場40a	ナシの病害虫防除に使用できる、農薬に替わる防除方法を検討し、農薬削減防除体系を確立する。	(成果) ・農薬削減病害防除体系は、例年病害虫の発生が少ないほ場では慣行防除とほぼ同等の防除効果が認められた。 ・農薬削減防除体系に利用可能な新たな資材が明らかになった。 ・ニセナシサビダニの防除回数の削減が可能な品種が明らかとなった。 ・マシン油の3月散布は、クワオオハダニ、クワコナカイガラムシに効果が高く、ニセナシサビダニにも効果が認められた。 ・青ナシではダニ剤が削減できる有効な防除体系が明らかになった。 ・コナカイガラムシ類の発生時期の把握に、性フェロモンを利用した予察方法が利用可能であると考えられた。 ・ナシマルカイガラムシは、有効積算温度による発生時期の予測が可能であることが明らかとなった。 ・果実袋の水抜き穴をさくことによりシンクイムシ類、コナカイガラムシ類の被害を軽減できる可能性が示唆された。 (課題) ・病害多発ほ場での検討。 ・農薬削減防除体系の確立。
スイカ、ホウレンソウ輪作体系におけるカテナ、ブロッコリー等収穫残渣の働き込みによる土壌病害防除効果の検証	本場	ほ場11a	新しい土壌消毒法のスイカ急性萎凋症、ホウレンソウ萎凋病に対する効果を明らかにする。	(成果) ・カラシナ及びブロッコリー残渣の踏み込みを利用した土壌消毒法は、踏み込み量2.5~5.0kg/m ² で、スイカの急性萎凋症及びホウレンソウ萎凋病に効果が高いことを明らかにした。 (課題) ・現地に普及可能な処理体系の確立。
低濃度エタノールによる新しい土壌消毒技術の開発	本場	ほ場3a	新しい土壌消毒法である低濃度エタノール処理のスイカ急性萎凋症、ホウレンソウ萎凋病に対する効果を明らかにする。	(成果) ・0.5~1%エタノール灌水被覆処理は、スイカ急性萎凋症、ホウレンソウ萎凋病に有効であった。 ・低濃度エタノール処理を夏期高温期に処理する場合は、被覆期間が7~14日でも良いと考えられた。 (課題) ・他の作物、病害虫に対する効果。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)園芸産地を守る難防除病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成23年度 ～平成27年度		(予算額) 支出済額	(2,052,000円) 1,231,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ホウレンソウケナゴコナダニの防除体系の確立	本場	ほ場3a	ホウレンソウケナゴコナダニに対する効果の高い防除体系を確立する。	(成果) ・ホウレンソウケナゴコナダニに対する有効な防除体系が明らかになった。 (課題) ・天敵等を利用した防除対策の検討。
ブロッコリーの難防除病害虫に対する防除対策の確立	本場	ほ場12a	ブロッコリーの黒腐病及び蕾核病に対し、効果の高い防除技術を確立する。	(成果) ・黒腐病に対し、抵抗性誘導剤は一定の発病抑制効果が認められた。 ・蕾核病に対し、新規薬剤の防除適期が明らかとなった。 (課題) ・効果的な防除体系の確立。
ラッキョウの赤枯病に対する温湯消毒等を利用した防除技術の確立	西園ほ場	ほ場6a	ラッキョウの赤枯病について、温湯消毒を含めた総合的な防除技術を確立する。	(成果) ・温湯消毒後で処理可能な糞球量が明らかになった。 ・温湯消毒の赤枯病に対する効果的な温度と処理時間が明らかになり、現地試験でも効果が確認された。 (課題) ・温湯消毒の処理時間の短縮。 ・温湯消毒以外の防除対策の検討。
ミニトマトのすすかび病の防除対策の確立	本場	ほ場3a	ミニトマトのすすかび病について、有効な防除体系を確立する。	(成果) ・すすかび病に有効な薬剤が明らかになった。 (課題) ・防除体系の検討。
スイカのオオタバコガの防除体系の確立	本場	ほ場6a	抑制小玉スイカで問題となっているオオタバコガの防除体系を確立する	(成果) ・オオタバコガに有効な薬剤が明らかになった。 ・他のテウ目害虫も含めたオオタバコガに有効な防除体系が明らかになった。 (課題) ・年次変動の確認。
ナシの難防除病害虫に対する防除技術の確立	本場 現地ほ場	ほ場10a 現地ほ場10a	ナシの白紋羽病、黒星病、枝枯病、胴枯病、シンクイムシ類、ハダニ類に対する防除対策を確立する。	(成果) ・温水処理により治療効果が期待できる白紋羽病の症状が明らかになった。 ・黒星病多発圃の主な伝染源は、昨年の罹病罹葉であり、薬剤散布量の増加、秋病選対策が必要であると考えられた。 ・シンクイムシ類に対して、効果の高い薬剤が明らかとなった。 ・クワオオハダニ、カンザワハダニに対し、効果の高い薬剤及び効果の低下した薬剤が明らかとなった。また、休眠態のカンザワハダニに対する有効な薬剤が明らかとなった。 (課題) ・防除体系の確立。 ・現地個体での効果確認。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ (平成24年12月31日現在)

事業名	(単)バイオテクノロジーによるナシ新品種シリーズの育成	担当室別	生物工学研究室
実施計画期間	19年度 28年度	(予算額) 支出済額	(3,500,000円) 2,100,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・期間	本年度の試験研究調査等の目標
高品質省力栽培対応ナシ系統の育	生物工学研究室・本場	交雑実生育成: 98個体 DNA鑑定による自家和合性選抜対象個体546個体	①自家和合性、②黒斑病・黒星病耐病性、③産度13度以上の良食味系統の選抜、④果重350g以上、⑤極早生
		ほ場選抜 幼木管理、生育調査 一次選抜対象1200系統 二次選抜対象29系統 三次選抜対象11系統 四次選抜対象16系統 五次選抜対象12系統 六次選抜対象5系統	
ナシ倍数体品種の育成		培養芽条:100本 倍数体ナシ:16系統18樹	自家和合性大玉系統の選抜
白軟弱病耐性ナシ台木の育成		耐病性選抜台木:189本	白軟弱病耐病性台木の選抜
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極早生優良品種育成を目的に、昨年度に獲得した8交配組み合わせ260個の交雑種子から88個体の実生苗を育成した。DNA鑑定により548個体の実生苗から自家和合性個体144個体を選抜し、ほ場に定植した。平成22年にほ場に定植した1200系統のうち681系統が初結果し、極早生で食味が良好な28系統を新たに選抜した。 ・平成9年～16年に交配したナシ雑種系統のうち、昨年度一次選抜した29系統については、今年度も安定して食味や果実品質に優れた2系統を有望と認め、二次選抜した系統については、花芽着生が安定し、食味や果実品質に優れた2系統を有望と認め、三次選抜した系統については、花芽着生が安定し、食味や果実品質に優れた4系統を有望と認め、さらに、花芽着生が安定し、食味や果実品質に優れた4系統を二次選抜、同様に3系統を五次選抜、同様に1系統を六次選抜した。 ・自家和合性個体の多検体判定の精度向上のため、シーケンサーで利用できPCR産物サイズを増幅する2つのS4smマーカーを作成した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極早生良食味系統の開発 			
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度に作出した早生優良品種3品種の倍数体系統の接ぎ木苗を育成し、夏さやかで31系統、新甘泉で29系統、早優良で39系統、合計99系統164個体を圃場に定植した。 ・前年までに育成した系統のうち、本年は13系統の自家和合性について調査した結果、3系統について自家和合性が確認された。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倍数体の果実形質の調査と優良系統選抜 			
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生ナシ間の交雑で獲た種子から実生を育成し、病原菌接種し病徴が全く認められぬ28個体を一次選抜した。 ・一次選抜個体は、満州野生ナシを交配に用いた組み合わせから得られ、母本として有望と考えられた。 ・実生苗への接種試験で選抜した、選抜系統間雑種15個体及び野生ナシ自然交雑種の三次選抜個体27個体は接木苗を育成・接種し耐病性評価を評価中である。 ・耐病性選抜系統H18、H21の2系統については白軟弱病多発現地圃場で実証試験を実施中で、白軟弱病菌による樹勢の低下がH18で2個体、対照のマズナシで1個体確認されたが、H18及びH21の白軟弱病耐病性は顕著としなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗増殖と栽培実証評価 			

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)パイテックによるナガイモ及びラッキョウ新品種の育成	担当室別	生物工学研究室	
実施計画期間	17年度 ～ 26年度	(予算額) 支出済額	(3,302,000円) 1,981,200円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ヤマノイモ雑種の特性評価による選抜		ヤマノイモ雑種: 培養植物体283系統 一次選抜対象系統:94系統 二次選抜対象系統:6系統	短型ナガイモ新系統の開発	(成果) ・人工交配、胚培養を経て、前年度までに獲得した雑種培養植物体283個体をハウスで養成し、不研芽の18系統、形状不良な135系統を淘汰し、130系統を一次選抜した。 ・前年度一次選抜した94系統を栽培し、形状が優れ、肥大性の良い1系統を一次選抜、9系統を再検討と判定した。 ・前年度二次選抜系統した6系統を供試し、特性評価により1系統を選抜し、2系統を再検討と判定した。 (課題) ・選抜系統の増殖および栽培特性評価
ヤマノイモ雑種有量系統の収量性回復試験		ヤマノイモ雑種有量系統1U61	弱毒ウイルス接種技術の確立	(成果) ・ウイルスフリーの1U61にナガイモ大橋系由来の弱毒のヤマノイモエンモザイクウイルス(OYNMV)をカーボンランダム法で接種した。RT-PCR法及び塩基配列解析により、1U61にOYNMVの感染を確認した。1U61の弱毒OYNMV感染個体を獲得した。 (課題) ・弱毒接種選抜系統の増殖および収量比較試験
乾腐病耐性のラッキョウの育成	生物工学研究室・砂丘地農業研究センター→現地ほ場	交配花数:24,000小花 交雑実生育成:400個体 ほ場選抜 西園ほ場2a 砂研センターハウス2a	ラッキョウ乾腐病耐性系統の開発	(成果) ・乾腐病抵抗性優良品種育成をめざし、本年度は24000小花を交配、子房培養し、交雑種を養成中。前年度に獲得した交雑種400個体についても組織培養で継代し、養成中。前年度までに培養で養成できた423個体は順化し、ポットで養成中。 ・3次選抜系統の中から、約10系統の収量性が高い耐病性系統を選抜した。 ・前年度までに選抜した大玉系統R6を供試し、栽培及び品質特性により評価した結果、耐病性に優れ、食味は良好であったが、収量性は低く、実用性は認められなかった。 ・灰色かび耐性にも優れる優良品種育成のため、不稔である玉系からコルヒチン処理により稔性のある玉六倍体を作出した。 (課題) ・食品加工適性評価、食味評価、選抜系統の増殖
赤いラッキョウの育成		ラッキョウと赤タマネギとの雑種:9系統	赤い色の生食用ラッキョウ(エシャロットタイプ)の育成	(成果) ・ラッキョウ栽培種と赤タマネギを交雑し、子房培養により25系統を育成。顕茎の赤色が濃い1系統を選抜し、現地試験で実証栽培を開始した。併せて種苗の増殖を図っている。 (課題) ・選抜系統の増殖および栽培特性評価 ・現地試験での実用性評価

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)バイオテックによる花きニューアイテムの開発		担当室別	生物工学研究室
	19年度 ～ 28年度	(予算額) 支出済額		(1,300,000円) 780,000円
試験計画期間	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
リンドウの新品種育成	花き研究室・生物工学研究室・日南試験地	花き研究室 ハウス10㎡ 露地ほ場1a 日南試験地 0.6a	盆咲き品種の開発	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの交配から、「33-5」を片親に用いた交配系統は草丈等の揃いが良く花色が濃くなりやすいなど、開花期、形質等の遺伝特性の傾向がいくつか判明した。 特に有望な4系統を智願町の農家圃場に定植し、現地適応性評価を行ったところ、優良系統については生産者の評価が高かった。一方、盆栽系の2系統は草姿の乱れが見られたため継続調査とした。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新品種候補の現地適応性検定。 新品種候補の新種種子の採種。 交配母本の適応性見極めと維持管理方法の確立。
		培養芽条数:862芽条 圃場定植:2系統×40株 交配花数:35花	日持ちの良い三倍体リンドウの育成	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 育種素材として現地優良系統7系統を収集し、クローン増殖を行った。 昨年まで圃場で養成した四倍体苗木をプランターに移植し、交配期に供試した。 三倍体を獲得するため、育成四倍体系統と優良系統(二倍体)の交配を4組み合わせて実施し、三倍体を獲得した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 三倍体の試作・養成・評価
ユリの新品種育成	生物工学研究室・花き研究室	交配花数:120花 馴化種間雑種数: 一次選抜対象個体数:5個体 一次選抜系統:5系統 二次選抜系統:3系統	小球開花性の新奇性の高いユリ品種の育成	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に獲得した種間雑種638個体順化し、231個体球根養成できた。 栽培試験により、前年度までに花形質が揃えることで選抜している一次選抜5系統から、りん片繁殖が容易で、1年以内で高率に開花し、花の評価が高い1系統を有望と認め、二次選抜した。 前年度までに二次選抜した3系統をりん片繁殖し、高単価が期待できるハウス抑制制御型への適応性を検討した結果、小球開花性が高く、花品質に優れた市場評価も高かった1系統を選抜した。また抑制制御型でも花品質に優れた1系統を再検討した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 選抜系統の増殖および栽培特性評価。
		花き研究室 ガラス温室20㎡ 露地ほ場50㎡	彼岸に出荷できる抑制制御型に適するシンテツポウユリの育成	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 18年度までに既存のシンテツポウユリ×タカゴユリ自生種F1を交雑し種子を得た。 19～23年度は系統内で集団育種法により種子を得た。20、21年度は目標とする形質(短日開花性など)を持つ親体が増加し、22～23年度から有望系統内で形質が揃い始めた。 24年度は交配で得られた11系統のうち慣行品種と同等以上の7系統を選抜した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 系統内の形質・揃いを高める
観賞用ラッキョウの新品種育成	生物工学研究室・現地ほ場	生物工学研究室 ビニールハウス 現地ほ場	鉢物品目としての実用性評価	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「フリティルビー」以外に鉢物出荷用として2系統選定し、現地試験への種苗を確保した。 この2系統は種苗登録申請を行うこととなった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地への種苗普及

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)他県産地に打ち勝つブドウ生産に向けた高度栽培法の確立	担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	20年度 24年度	(予算額)	(2,100,000円)	
	~	支出済額	1,260,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ピオーネの着色優良系統への早期栽培技術の確立 1 優良系統の選抜	砂丘地農業研究センター	ほ場 8a	鳥取県にあったピオーネ着色優良系統の選抜	(成果) 着色と収量性で両合系と両合系が優れていると判断された。 (課題) 年次変動を調べるため継続調査が必要
2 ピオーネ種なし栽培の技術確立		ほ場 2a	ピオーネ種なし栽培における予備整形の技術確立	(成果) 満開10日前に予備整形を、20~30mmにすると約40粒の花蕾数を確保できることが判った。 (課題) 予備整形と果粒肥大の関係性を解明する。
青ブドウブランド化に向けた高品質果実生産技術確立 1 シャインマスカットの着粒安定		ほ場 8a	花齧いを防止し着粒安定をするための対策を検討する。	(成果) フルメット3ppmを開花2週間前に処理することで着粒が安定することが判った。 (課題) 単年度の試験であり、継続試験が必要。
2 シャインマスカットの果実安定試験		ほ場 8a	シャインマスカットの袋種類による収穫時期調査	(成果) 透明袋は9月上旬から、青竹は9月中旬からが収穫適だと判断された。 (課題) 単年度の試験であり、継続試験が必要。
雨よけ施設による高品質果実生産技術の確立 1 雨よけ施設設けに適した品種の選定		ほ場 2a	雨よけ施設に適した品種を選定するため食用10品種の果実品質や経済性について検討する。	(成果) 安芸クイーンとゴルビーが、有望と判った。 (課題) 単年度の試験であり、継続試験が必要。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)人と農にやさしい低コスト型ラッキョウ生産技術の確立	担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	21年度 ～ 26年度		(予算額) 支出済額	(3,000,000円) 1,800,000円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
有機栽培技術の確立	砂丘地農業研究 センター	西岡は場2a	有機栽培可能な系統、施肥方法、防除法を明らかにする	(成果) 有機栽培の分散型施肥法で慣行と同程度の収量となった。病害虫の発生は、枯防除有機栽培区で白色疫病の発生が多かった。害虫発生は、差が見られなかった。 (課題) 年次変動を見るため継続調査が必要である。
生産コスト低減栽培技術の確立 1 施肥削減によるコスト軽減の検討		島取市福部町8a	元肥やPK化成の効果を検証し、削減できるかを検討する。	(成果) 基肥窒素量と収量との関係から、元肥は削減可能と思われたが、判然としなかった。また、リン酸の施肥効果は判然としなかった。 (課題) 年次変動を見るため継続調査が必要である。
2生育期間中における灌水方法の検討		砂丘地農業研究センター1a	秋季及び春季の灌水が生育、収量、熟期に及ぼす影響を調査する。	(成果) 春の灌水は収量を増加させるが、秋の灌水の効果は判然としなかった。 (課題) 年次変動を見るため継続調査必要。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)多チャネル販売に対応した「ねばりっ娘」等生産技術の確立	担当官別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	23年度 ～ 27年度	(予算額) 支出済額	(3,000,000円) 1,800,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
多チャネル販売に対応した「ねばりっ娘」、ナガイモ生産技術の確立 1 改良施肥による子芋・頂芽利用技術の確立	砂丘地農業研究センター	ほ場5a	ねばりっ娘にあった施肥法を確立する。	(成果) 減肥を一切は早期に施しても、収量に影響は見られなかった。 (課題) 施肥時期と生育の関係を明らかにする。
2 肌の輪縁ならぶの栽培法の確立		ほ場5a	8月以降の減肥と10月以降のつる切りが、芋品質に与える影響を調査する。	(成果) 8月以降の減肥は、収量に影響がなかった。つる切りは、乾物率に影響するが芋形には影響がなかった。 (課題) 年次変動を見るため、継続調査が必要。
3 頂芽保存法の確立		ほ場5a	調整時期と保存方法の違いが減耗率と出芽率に与える影響を調査する。	(成果) 頂芽調整後にポリ袋で保存することで、消耗率・発芽率・収量を向上させることが判った。 (課題) 保存温度と消耗率の関係を明らかにする。
高品質「ねばりっ娘」、ナガイモ生産技術の確立 1 ナガイモにおける節肥法の検討		ほ場5a	8月以降の減肥および肥料の種類の違いが収量品質に及ぼす影響を調査する。	(成果) 8月以降の減肥は、収量に影響がなかった。 (課題) 年次別変動を見るため、継続調査が必要。
2 「ねばりっ娘」における栽培特性の調査		ほ場5a	「ねばりっ娘」の生育推移を経時的に調査し、栽培特性を調査する。	(成果) 芋60g、頂芽30gの生育を比べると乾物率は頂芽の方が、早く増加したが、アウクの消失は遅かった。 (課題) 年次別変動を見るため、継続調査が必要。
生産安定技術の確立 1 黒陥没障害発生時期の解明	ほ場5a	発生時期を継続調査し、要因解明の基礎資料とする。	(成果) 本年の気象等の栽培条件下では、発生が見られなかった。 (課題) 気象等の要因の詳細な検討のため、継続調査が必要。	
2 黒陥没障害の軽減策の検討	東園ほ場10a	種わら、モミガラを用いた、黒陥没軽減に及ぼす影響を調査する。	(成果) 種わら、モミガラは、地温上昇を抑えるが、黒陥没との関係は、判断しなかった。 (課題) 年次変動を見るため、継続調査が必要。	
3 黒陥没障害の原因究明	セウラ園ほ場5a	灌水量の違いが黒陥没症に与える影響を検討する。	(成果) 本年の気象条件下では、灌水と黒陥没症の関係は、判断しなかった。 (課題) 別方法による黒陥没軽減の方法の探索と要因の解明	
	東園ほ場5a	施肥量の違いが、黒陥没障害に与える影響を調査する。	(成果) 施肥量の3倍区で黒陥没症の発生が若干多かった。 (課題) 継続調査を行い、年次別変動がないかを調査する。	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(再)地球温暖化に対処した白ネギ安定生産技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場
実施計画期間	23年度 ~ 26年度		(予算額)	(1,091,000円)
				支出済額
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
夏越し栽培技術の確立	弓浜砂丘地分場	ほ場 16a	夏期の高湿・乾燥による腐敗・枯死を抑制する栽培技術の確立に向け、盛夏期における散水の影響・効果を検討する。	(成果) ・夏期の散水は、無散水区に比べ地温を低下させ、夏期の生育が向上、夏越し後の欠株が減少し、収量も向上した。 ・多散水及び途中散水中止区では減収につながる危険性が考えられた。 (課題) ・夏期の灌水の開始時期と終了時期、灌水強度の差が生育・収量・在圃性、収穫後に及ぼす影響の検討及び耐暑性品種の検索。
周年出荷体系の強化		ほ場 36a	高品質な白ネギの周年安定供給に向け、作型別適品種の選定等を検討する。	(成果) ・一ネギの完全周年化に向け、5月どり有産品種を選定し、栽培法を検討した。また、年内の生育中期までを多肥、生育後期を減肥することで抽苔抑制につながる可能性が考えられた。 ・また、セルトレイ育苗により、無トンネル栽培による6月どり作型の省力化の可能性を見いだした。 (課題) ・年次変動の確認および他作型の適品種の選定。 ・5月どり春ネギの作期拡大、6月どり夏ネギの前通化

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)入・未采環境にやさしい白ネギ生産技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分増
実施計画期間	23年度 ～ 26年度		(予算額) 支出済額	(892,000円) 535,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
土壌養分と白ネギ養分吸収の関係解明	弓浜砂丘地分増	ほ場 36a	・土壌診断に基づいた施肥が重要視されており、弓浜砂丘地域の白ネギ栽培圃場における土壌養分実態を調査し、施肥設計技術を確立する。併せて盛夏期散水条件下における養分吸収特性を調査する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 弓浜砂丘圃場の土壌養分分析の結果、約7割の圃場において硝酸が過剰に蓄積されていることが確認された。 収作物における養分吸収量の試験を実施中。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正施肥量の検討 可給窒素率に基づく施肥基準の作成
堆肥利用による硝酸、加里の削減と有機物の連年施用効果		ほ場 36a	・白ネギ栽培における堆肥等の有機物を利用した肥培管理技術を確立する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 堆肥の種類及び施用量について試験を実施中。 各種有機物の連年施用効果について試験を実施中 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 堆肥利用による硝酸、加里の施用量の削減 緑肥、海藻類の施用効果の検証

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(単)消費者・生産者が求めるカキの革新的栽培方法の確立	担当室別	河原試験地	
実施計画期間	21年度 25年度	(予算額) 支出済額	(1,280,000円) 768,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
水田転換園での生産安定、品質向上技術を確立する	河原試験地及び現地ほ場		1散化の原因を究明するための調査 2散化軽減対策の現地実証試験 3収穫管理方法の確立 4脱皮、貯蔵方法の確立 5水田環境に適した台木の選抜試験	(成果) 1山畑、水田ほ場とも平年より樹上散化が少なかった。 2系統により萌芽不良や生理落果の発生頻度に差が見られ、鳥取県選抜のNO2や遠藤系が有望と考えられた。 3箱処理タイプの1-MCP処理を行うことで、日持ち性が4日間改善された。 (課題) 1樹上散化の原因究明のための調査及び対策について、継続試験を行う。
鳥取オリジナル品種「輝太郎」の栽培技術の確立	河原試験地		1生理落果防止技術の確立 ・液体受粉の検討 ・ジベレリン処理の検討 2空洞果防止技術の確立 ・液体受粉の検討 3整枝・せん定技術の確立 ・輝太郎に適した整枝方法の検討	(成果) 1液体受粉を行っても、種子があまり入らず空洞果の軽減にはならなかった。 2ジベレリン処理を行うことで生理落果が少なくなる傾向が見られた。 (課題) 1他の植物調節剤の効果を検討する。
新品種の平圃栽培による高品質多収栽培技術を確立する	河原試験地	ほ場 80a および 現地試験	1整枝・剪定及び新梢管理技術の確立 2營養管理技術の確立 3新品種での高品質栽培技術の確立	(成果) 1・播栽培用の輝太郎等の新品種を植栽し、育成中である。 (課題) 1種に誘引できる樹高になるため、栽培管理を徹底する。
ポット栽培による高品質多収と軽労働化技術を確立する	河原試験地		1品種に適した各種早期多収方法の検討 2栄養管理技術の確立 3早期多収技術の確立 4栽培技術のマニュアル化に向けた基礎試験	(成果) 1これまでの施肥体系より1か月遅くまで施肥を行ったが果実品質は、大きく変わらなかった。 (課題) 1施肥では、果実品質が変わらなかったため、かん水方法等の検討を行う。
西条、花御所等の優良系統の選定	河原試験地及び現地ほ場		1「花御所」の優良系統選抜 2加工用に適した「西条」の優良系統選抜	(成果) 1「花御所」は、E系統が雄花が少なく、有望と考えられ、現地試験を開始した。 2加工に向く「西条」の系統として2つの系統が有望と考えられた。 (課題) 1「花御所」については、現地試験で特性調査を行う。「西条」についても、現地試験について検討する。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成24年12月31日現在)

事業名	(果)中山間地基準品目及び土地利用型野菜の栽培法確立	担当室別	日南試験地	
実施計画期間	21年度 25年度	(予算額) 支出済額	(2,510,000円) 1,506,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
夏秋トマトの高品質多収栽培技術確立	日南試験地	ハウス 72a	・桃太郎シリーズ品種の中から葉力・病抵抗性の高品質多収品種を検索する。 ・中位(5~7)段の生産安定を図る方法及び低段密植による9月集中出荷技術を検討する。 ・未開花苗の定植を前提としたが栽培方法を検討する。 ・かいよう病に対する土壌消毒の効果を確認する。	(成果) ・「桃太郎サニー」は大玉傾向、「TIM-055」は小玉傾向であったが、収量は慣行の「桃太郎B」と同等で品質面に大差は認められなかった。 ・「がんばる根11号」は深層施肥をすることにより、中位段以降の収量が軽減された。 ・慣行の株間の1/2で定植すると相互遮蔽により徒長し着果が盛くなるが、裂果の発生は有意に減少した。 ・ハウス低段密植栽培では土壌水分張力pF2.0を基準に株あたり0.5~2リットルをかん水すると着果が良好となり多収となった。簡易露地トンネル栽培では透光率30%程度の遮光資材の被覆により収果がやや減少した。 ・未開花成苗定植において基肥削減、主枝更新による収量、品質向上は認められなかった。 ・かいよう病多発区においてダソメット微粒剤60kg/10aによる土壌消毒効果を確認したところ、8月から発病が確認されたが、収量への影響はなかった。 (課題) ・桃太郎シリーズ新品種の検索 ・中位段生産安定技術の確立 ・かいよう病効果の確認
夏冬平価化と低コスト安定多収技術の確立	日南試験地	ほ場 18a	・夏ネギの盆前出荷技術の安定化を図る。 ・作期別高品質多収品種を選定する。 ・省力・低コスト栽培技術を検討する。 ・連作障害対策として土壌消毒の効果を確認する。	(成果) ・盆前出荷作型の直置き育苗では発芽まで露床で管理することで11月相当の生育促進効果が認められ、2月は種でも方盆前出荷が可能となった。定植後の乾燥期にかん水を行うことで生育収量が向上した。 ・夏どり作型では「先の劍」及び「開羽一本太」、秋冬どり作型では「舞光」がそれぞれ有利と認められた。 ・前年発生ほ場での土壌消毒により増収効果は認められたが、病害を完全に抑制することはできず効果は判然としなかった。 ・亜リン酸の施用効果は判然としなかった。 (課題) ・芽出し処理による大苗生産技術の安定化 ・定植後のかん水効果及び梅雨期の簡易排水対策の効果確認
夏秋ピーマンの安定多収技術の確立		ほ場 2a	・高品質多収品種の接木栽培特性を調査する。 ・トンネル早熟栽培の実用性を検討する。	(成果) ・「京ひかり」は接木により生育が緩慢となったが、総収量は慣行の「京波」実生栽培と同等で、果形不良果の減少により秀品収量は増加した。 ・定植時期を慣行より3週間早めて大型農バートンネルで1ヶ月間保温することで6月下旬から収穫が可能となり総収量は増加したが、果形不良果が増加し問題となった。 (課題) ・接木栽培における施肥法改善 ・トンネル早熟栽培の被覆処理法の改良

試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ブロッコリーの作型 開発	日南試験地	ほ場 6a	・初夏どり及び秋冬どり作型の 安定栽培法を確立する。	(成果) ・6月中旬収穫は「恵麟」、同下旬収穫は「陽 麟」、7月上旬収穫は「サマードーム」の品質 が優れ有望と認められた。本作型では根鉢 の大型化や育苗培土へのマイクロロング肥 料混和により収穫時期が前進化した。 ・9月上旬収穫では「TSX-302」が有望と認 められた。 (課題) ・新品種の検索 ・マイクロロング混和による育苗法の検討
冬春キャベツの安 定栽培技術の確立		ほ場 2a	・降霜期結球作型の有望品種 「とくみづ」の栽培法を検討する。 ・糖度と汁液成分の関係を調査 する。	(成果) ・施肥法、栽培法を変えても葉を小さくするこ とはできなかったが、2条密植栽培により作 業性が向上した。 ・種苗までは日最低気温5℃以下の連日 日数が多いほど糖度が高まり、同時にアスコル ビン酸、糖含量が増加し、硝酸含量が減少し た。 (課題) ・年次変動の把握 ・栽培マニュアル作成

○意見、要望等

(1)業務に関する意見・要望等

特になし

(2)監査委員事務局に対する要望等

特になし

